

(別紙)

既存添加物名簿収載品目リスト (改正箇所)

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
1	アウレオバシジウム培養液 (アウレオバシジウム培養液から得られた、β-1,3-1,6-グルカンを主成分とするものをいう。)			黒酵母 (<i>Aureobasidium pullulans</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分はβ-1,3-1,6-グルカンである。		増粘安定剤	Aureobasidium cultured solution	
2	アガラーゼ			担子菌 (<i>Coliolum</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus, Pseudomonas</i>) の培養液より、水で抽出して得られたものである。		酵素	Agarase	
3	アクチニジン			マタタビ科キウイ (<i>Actinidia chinensis</i> PLANCH) の果肉より、搾汁して得られたもの、又はこれを、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、若しくは膜で濃縮して得られたものである。		酵素	Actinidine	
4	アグロバクテリウムスクシノグリカン (アグロバクテリウムの培養液から得られた、スクシノグリカンを主成分とするものをいう。)		スクシノグリカン	細菌 (<i>Agrobacterium tumefaciens</i>) の培養液より、分離して得られた多糖類である。主成分はスクシノグリカンである。		増粘安定剤	Agrobacterium succinoglycan	
5	アシラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus ochraceus, Aspergillus melleus</i>) の培養液より、水で抽出して得られたもの、冷時～室温時除菌したもの、又はこれより、冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Acyase	
6	アスコルビン酸オキシダーゼ	アスコルベートオキシダーゼ ビタミンCオキシダーゼ	オキシダーゼ V.Cオキシダーゼ	ウリ、カボチャ、キャベツ、キュウリ若しくはホウレンソウより、搾汁して得られたもの、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時アセトンで処理して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Trichoderma lignorum</i>) 若しくは放線菌 (<i>Eupenicillium brefeldianum</i>) の培養液より、除菌後、濃縮して得られたものである。		酵素	Ascorbate oxidase	
7	L-アスパラギン		アスパラギン	植物性タンパク質を、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-アスパラギンである。		調味料 強化剤	L-Asparagine	定義なし
8	L-アスパラギン酸		アスパラギン酸	発酵又は酵素法により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-アスパラギン酸である。		調味料	L-Aspartic acid	定義なし
9	アスペルギルスステレウス糖たん白質 (アスペルギルスステレウスの培養液から得られた、糖タンパク質を主成分とするものをいう。)	ムタステイン		糸状菌 (<i>Aspergillus terreus</i>) によるブドウ糖、澱粉及び大豆ミールの発酵培養液を除菌し、硫酸アンモニウムにより分画した後、脱塩して得られたものである。主成分は糖タンパク質である。		製造用剤	Aspergillus terreus glycoprotein	
10	α-アセトラクタートデカルボキシラーゼ	α-アセトラクテートデカルボキシラーゼ	リアーゼ	細菌 (<i>Bacillus subtilis, Serratia</i>) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。		酵素	α-Acetolactate decarboxylase	
11	5'-アデニル酸	アデノシン5'-リン酸	5'-AMP	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、熱時水で抽出した核酸を酵素で加水分解した後、分離して得られたものである。成分は5'-アデニル酸である。	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、 熱時 水で抽出した核酸を酵素で加水分解した後、分離して得られたものである。成分は5'-アデニル酸である。	強化剤	5'-Adenylic acid	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、水で抽出した核酸を酵素で加水分解した後、分離して得られたものである。成分は5'-アデニル酸である。
12	アナトー色素 (ベニノキの種子の被覆物から得られた、ノルピキシン及びピキシンを主成分とするものをいう。)		アナトー カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	ベニノキ科ベニノキ (<i>Bixa orellana</i> LINNE) の種子の被覆物より、熱時油脂若しくはプロピレングリコールで抽出して得られたもの、室温時ヘキサン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたもの、又は熱時アルカル性水溶液で抽出し、加水分解し、中和して得られたものである。主色素はピキシン及びノルピキシンである。黄色～橙色を呈する。		着色料	Annatto extract	
13	アマシードガム (アマの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		アマシード	アマ科アマ (<i>Linum usitatissimum</i> LINNE) の種子の胚乳部分より、室温時～温時水又は含水アルコールで抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。		増粘安定剤	Linseed gum Linseed extract	
14	アミノペプチダーゼ			細菌 (<i>Aeromonas caviae, Lactobacillus casei, Lactococcus lactis</i>) の培養液より、分離して得られたものである。		酵素	Aminopeptidase	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
15	α-アミラーゼ	液化アミラーゼ G3分解酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aureus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i>)、細菌 (<i>Alcaligenes latus</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus licheniformis</i> , <i>Bacillus</i> <i>stearothermophilus</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Sulfolobus solfataricus</i>) 若しくは放線菌 (<i>Thermomonospora viridis</i>) の培養液より、又は麦 芽より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除 菌したもの若しくは濃縮したもの、冷時エタノール、 含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られた もの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処 理して得られたものである。		酵素	α-Amylase	
16	β-アミラーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i> <i>amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus polymyxa</i> , <i>Bacillus</i> <i>subtilis</i>) の培養液より、又は麦芽若しくは穀類の種 子より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの若し くは濃縮して得られたもの、又は冷時エタノールで処 理して得られたものである。		酵素	β-Amylase	
17	L-アラニン		アラニン	タンパク質原料の加水分解又は発酵若しくは酵素法に より得られたものを、分離して得られたものである。 成分はL-アラニンである。		調味料 強化剤	L-Alanine	定義なし
18	アラビアガム (アカシアの分泌液から得られた、多 糖類を主成分とするものをいう。)	アカシアガム	アカシア	マメ科アラビアゴムノキ (<i>Acacia senegal</i> WILLDENOW) 又はその他同属植物の分泌液を、乾燥し て得られたもの、又はこれを脱塩して得られたものを いう。主成分は多糖類である。	アカシア属植物マメ科アラビアゴムノキ (<i>Acacia</i> <i>senegal</i> Willdenow又は <i>Acacia seyal</i> Delile) 又はそ の他同属植物の分泌液を、乾燥して得られたもの、又 はこれを脱塩して得られたものをいう。主成分は多 糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤	Gum Arabic Arabic gum Acacia gum	アカシア属植物 (<i>Acacia senegal</i> Willdenow又は <i>Acacia seyal</i> Delile) の分泌液を、乾燥して得られ た、又はこれを脱塩して得られた、多糖類を主成分と するものである。
19	アラビノガラクトラン			マツ科セイヨウカラマツ (<i>Larix occidentalis</i> NUTT.) 又はその他同属植物の根又は幹より、室温時 水で抽出して得られたものである。成分は多糖類 (構 成糖はガラクトース、アラビノース等) である。		増粘安定剤	Arabino galactan	
20	L-アラビノース		アラビノース	アラビアガム、ガディガム又はコーンファイバーの配 糖体又はサトウダイコンのバルブ (シュガービートパ ルブ) の多糖類 (アラビナン) を、加水分解し、分離 して得られたものである。成分はL-アラビノースであ る。	アラビアガム、ガディガム、又はコーンファイバー又 はテンサイのバルブ (シュガービートパルブ) の配糖 体又はサトウダイコンのバルブ (シュガービートパ ルブ) の多糖類 (アラビナン等) を、加水分解し、分離 して得られたものである。成分はL-アラビノースであ る。	甘味料	L-Arabinose	アラビアガム、ガディガム、コーンファイバー又はテ ンサイのバルブ (シュガービートパルブ) の多糖類 (アラビナン等) を、加水分解し、分離して得られた ものである。成分はL-アラビノースである。
21	L-アルギニン		アルギニン	タンパク質原料の加水分解により又は糖類を原料とし た発酵により得られたものを、分離して得られたもの である。成分はL-アルギニンである。		調味料 強化剤	L-Arginine	定義なし
22	アルギン酸	昆布類粘質物		褐藻類 (<i>Phaeophyceae</i>) より、温時～熱時水又はアル カリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものであ る。成分はアルギン酸である。		増粘安定剤	Alginate acid	定義なし
23	アルギン酸リアーゼ			細菌 (<i>Alteromonas macleodii</i> , <i>Flavobacterium</i> <i>multivolum</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Xanthomonas</i>) の培養液よ り、室温時水で抽出して得られたものである。		酵素	Alginate lyase	
24	アルミニウム	アルミ末		²⁷ Al		着色料	Aluminium	
25	アントシアナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Penicillium decumbens</i>) の培養液より、又は麦芽若 しくは穀類の種子より、冷時～室温時水で抽出して得 られたもの又はこれを冷時エタノール又は含水エタ ノールで処理して得られたものである。		酵素	Anthocyanase	
26	イソアミラーゼ	枝切り酵素		細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Flavobacterium odoratum</i> , <i>Pseudomonas amyloclavata</i>) の培養液より、冷時～ 室温時除菌後、冷時～室温時濃縮して得られたもの である。		酵素	Isoamylase	
27	イソアルファー苦味酸 (ホップの花から得られた、イソフム ロン類を主成分とするものをいう。)	イソアルファー酸	ホップ	クワ科ホップ (<i>Humulus lupulus</i> LINNE) の雌花よ り、水、二酸化炭素又は有機溶剤で抽出し、熱処理し て得られたものである。主成分はイソフムロン類であ る。		苦味料等	Iso-α-bitter acid	
28	イソマルトデキストラナーゼ			細菌 (<i>Arthrobacter</i>) の培養液より、水で抽出して得 られたものである。		酵素	Isomaltodextranase	

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考 食品添加物公定書(第8版)
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、旧リストのままとする。			
29	イタコン酸	メチレンコハク酸		麹菌 (<i>Aspergillus terreus</i>) による澱粉又は粗糖発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はイタコン酸である。		酸味料	Itaconic acid	
30	イナワラ灰抽出物 (イネの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)	ワラ灰抽出物	植物灰抽出物	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の茎又は葉を灰化したものより、室温時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。		製造用剤	Rice straw ash extract	
31	イヌリナーゼ	イヌラーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Penicillium purpurogenum</i> , <i>Trichoderma</i>) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。		酵素	Inulinase	
32	イノシトール	イノシット		「フィチン酸」を分解したのものより、又はアカザ科サトウダイコン (<i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>rapa</i> DUMORTIER) の糖液又は糖蜜より、分離して得られたものである。成分はイノシトールである。		強化剤	Inositol	
33	インベルターゼ	サッカラーゼ シュークラーゼ スクラーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i>)、細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus</i>) 又は酵母 (<i>Kluveromyces lactis</i> , <i>Saccharomyces cerevisiae</i>) の培養液より、冷時～室温時菌体を回収して得られたもの、冷時～室温時水若しくはアルカリ性水溶液で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮して得られたもの、又はアセトン若しくはアルコールで処理し、イオン交換処理後、アセトン若しくはアルコールで処理及び透析除去したものである。		酵素	Invertase	
34	ウェランガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ウェラン多糖類		グラム陰性細菌 (<i>Alcaligenes</i>) の培養液より、分離して得られた多糖類である。		増粘安定剤	Welan gum	
35	ウコン色素 (ウコンの根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものをいう。)	クルクミン ターメリック色素	ウコン	ショウガ科ウコン (<i>Curcuma longa</i> LINNE) の根茎の乾燥品より、温時エタノールで、熱時油脂若しくはプロピレングリコールで、又は室温時～熱時へキサン若しくはアセトンで抽出して得られたものである。主色素はクルクミン類である。黄色を呈する。	ショウガ科ウコン (<i>Curcuma longa</i> Linne) の根茎からの乾燥品より、温時エタノールで、熱時油脂若しくはプロピレングリコールで、又は室温時～熱時へキサン若しくはアセトンで抽出して得られた、ものである。主色素はクルクミンを主成分とするもの類である。食用油脂を含むことがある黄色を呈する。	着色料	Turmeric oleoresin Curcumin	ウコン (<i>Curcuma longa</i> Linné) の根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
36	ウルシロウ (ウルシの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)			ウルシ科ウルシ (<i>Rhus verniciflua</i> LINNE) の果実より、融解、さらして得られたものである。主成分はグリセリンパルミタートである。		ガムベース 光沢剤	Urushi Wax	
37	ウレアーゼ		アミダーゼ	乳酸菌 (<i>Lactobacillus fermentum</i>) 又は細菌 (<i>Arthrobacter</i>) の培養液を、室温時水で抽出し、冷時エタノールで処理して得られたもの、又は濃縮し、微温時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Urease	
38	エキソマルトテトラオヒドロラーゼ	G4生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	細菌 (<i>Pseudomonas stutzeri</i>) の培養液より、室温時除菌し、膜で濃縮して得られたもの、又はこれをエタノールで処理して得られたものである。		酵素	Exomaltotetrahydrolase	
39	エステラーゼ			動物の肝臓、魚類、糸状菌 (<i>Aspergillus</i>)、細菌 (<i>Pseudomonas</i>) 若しくは酵母 (<i>Candida</i> , <i>Torulopsis</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの若しくは濃縮したもの、又は冷時～室温時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Esterase	
40	エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを主成分とするものをいう。)			カンラン科エレミ (<i>Canarium luzonicum</i> A. GRAY.) の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分はβ-アミリンである。		増粘安定剤 ガムベース	Elemi resin	
41	塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類を主成分とするものをいう。)		塩水湖水ミネラル液	塩水湖の塩水を、天日蒸散により濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離し、残りの液体をろ過したものである。主成分はアルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類である。		調味料	Sodium chloride-decreased brine (saline lake)	
42	オゾケライト	セレシン		ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製したものである。主成分はC ₂₉ ～C ₅₃ の炭化水素である。		ガムベース	Ozokerite	
43	オゾン			O ₃		製造用剤	Ozone	
44	オリゴガラクチュロン酸			「ペクチン」をペクチナーゼで酵素分解し、限外ろ過して得られたものであって、ガラクチュロン酸の1～9量体の混合物からなる。		製造用剤	Oligogalacturonic acid	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
45	γ-オリザノール (米ぬか又は胚芽油から得られた、ステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルを主成分とするものをいう。)		オリザノール	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか又は胚芽油より、室温時含水エタノール及びn-ヘキサン又はアセトンで分配した後、含水エタノール画分から得られたものである。主成分はステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルである。		酸化防止剤	γ-Oryzanol	
46	オレガノ抽出物 (オレガノの葉から得られた、カルバクロール及びチモールを主成分とするものをいう。)			シソ科オレガノ (<i>Origanum vulgare</i> LINNE) の葉より、室温時～温時エタノール、含水エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。成分としてチモール及びカルバクロールを含む。		製造用剤	Oregano extract	
47	オレンジ色素 (アマダイダイの果実又は果皮から得られた、カロテン及びキサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 果実色素	ミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK) の果実又は果皮より、搾汁したもの、又は熟時エタノール、ヘキサン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はβ-クリプトキサンチンの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。		着色料	Orange colour	
48	海藻灰抽出物 (褐藻類の灰化物から得られた、ヨウ化カリウムを主成分とするものをいう。)			褐藻類を焼成灰化したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はヨウ化カリウムである。		製造用剤	Seaweed ash extract	
49	カオリン	白陶土	不溶性鉱物性物質	白陶土より得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	白陶土より得られたものである。主成分は天然の含水ケイ酸アルミニウムを精製したものである。	製造用剤	Kaolin	天然の含水ケイ酸アルミニウムを精製したものである。
50	カカオ色素 (カカオの種子から得られた、アントシアニンの重合物を主成分とするものをいう。)	ココア色素	カカオ フラボノイド フラボノイド色素	アオギリ科カカオ (<i>Theobroma cacao</i> LINNE) の種子(カカオ豆)を発酵後、焙焼したものより、温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はアントシアニンが熱により重合したものである。褐色を呈する。		着色料	Cacao colour	
51	カキ色素 (カキの果実から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		果実色素 フラボノイド フラボノイド色素	カキノキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の果実を発酵後、焙焼したものより、温時含水エタノールで抽出して得られたもの、又は温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。赤褐色を呈する。		着色料	Japanese persimmon colour	
52	花こう斑岩		麦飯石 不溶性鉱物性物質	花こう斑岩を洗浄、粉碎したものを、乾燥後、滅菌して得られたものである。		製造用剤	Granite porphyry	
53	カシアガム (エビスグサモドキの種子を粉碎して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	カシヤガム		マメ科エビスグサモドキ (<i>Cassia tora</i> LINNE) の種子の胚乳部を、粉碎して得られたものである。主成分は多糖類である。		増粘安定剤	Cassia gum	
54	カタラーゼ		オキシダーゼ	ブタの肝臓より、水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus foetidus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Penicillium amagasakiense</i>) 細菌 (<i>Micrococcus lyzodeikticus</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、温時溶菌後、除菌し、冷時～室温時濃縮して得られたもの、又はこれを冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Catalase	
55	活性炭 (含炭素物質を炭化し、賦活化して得られたものをいう。)			鋸屑、木片、ヤシ殻の植物性繊維質、亜炭又は石油等の含炭素物質を炭化後、賦活化を行って得られたものである。		製造用剤	Active carbon	定義なし
56	活性白土		不溶性鉱物性物質	「酸性白土」を、硫酸処理して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	「酸性白土」を、硫酸処理して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	製造用剤	Activated acid clay	酸性白土を硫酸処理して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。
57	ガティガム (ガティノキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ガティ	シクンシ科ガティノキ (<i>Anogeissus latifolia</i> WALL.) の幹の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分は多糖類である。	シクンシ科ガティノキ (<i>Anogeissus latifolia</i> WallichALL.) の幹の分泌液からを、乾燥して得られたものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤	Gum ghatti	ガティノキ (<i>Anogeissus latifolia</i> Wallich) の分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものである。
58	カテキン			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の茎若しくは葉、マメ科ベグアセンヤク (<i>Acacia catechu</i> WILLD.) の幹枝又はアカネ科ガンビール (<i>Uncaria gambir</i> ROXBURGH) の幹枝若しくは葉より、乾留した後、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたもの、又は熱時水で抽出した後、メタノール若しくは酢酸エチルで分配して得られたものである。成分はカテキン類である。		酸化防止剤	Catechin	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
59	カードラン (アグロバクテリウム又はアルカリゲ ネスの培養液から得られた、β-1,3- グルカンの主成分とするものをい う。)		ブドウ糖多糖	グラム陰性細菌 (<i>Agrobacterium</i> , <i>Alcaligenes</i> <i>faecalis</i> CAST) の培養液より、分離して得られたも のである。主成分はβ-1,3-グルカンである。	アグロバクテリウム属菌 グラム陰性細菌 (<i>Agrobacterium biovar 1</i>) 又はリゾビウム属菌 (<i>Rhizobium radiobacter</i>) Alcaligenes faecalis CAST) の培養液から得られた、より、分離して得られ たものである。主成分はβ-1,3-グルカンの主成分と するものである。	増粘安定剤 製造用剤	Curdlan	アグロバクテリウム属菌 (<i>Agrobacterium biovar 1</i>) 又はリゾビウム属菌 (<i>Rhizobium radiobacter</i>) の培 養液から得られた、β-1,3-グルカンを主成分とする ものである。
60	カフェイン (抽出物) (コーヒーの種子又はチャの葉から得 られた、カフェインを主成分とするも のをいう。)		カフェイン	アカネ科コーヒー (<i>Coffea arabica</i> LINNE) の種子 (コーヒー豆) 又はツバキ科チャ (<i>Camellia</i> <i>sinensis</i> O. KZE.) の葉より、水又は二酸化炭素で抽 出し、分離、精製して得られたものである。主成分は カフェインである。		苦味料等	Caffeine (extract)	
61	カラギナン (イバラノリ、キリンサイ、ギンナン ソウ、スギノリ又はツノマタの全藻か ら得られた、ι-カラギナン、κ-カラ ギナン及びλ-カラギナンを主成分と するものをいう。)	カラギーナン カラゲナン カラゲーナン カラゲニン				増粘安定剤	Carrageenan	
	加工ユーケマ藻類		ユーケマ	ミリン科キリンサイ属 (<i>Eucheuma</i>) の全藻より、熱時 水酸化カリウムで処理し、中和し、乾燥、粉碎して得 られたものである。	カラギナン (イバラノリ属 (<i>Hypnea</i>)、ミリン科キリ ンサイ属 (<i>Eucheuma</i>)、ギンナンソウ属 (<i>Iridaea</i>)、スギノリ属 (<i>Gigartina</i>) 又はツノマ タ属 (<i>Chondrus</i>) の藻類の全藻から得られた、ι-カラ ギナン、κ-カラギナン及びλ-カラギナンを主成分と するものをいう。) の一つより、熱時水酸化カリウム で処理し、中和し、乾燥、粉碎して得られたものであ る。		Semirefined carrageenan Processed eucheuma algae Processed red algae	カラギナン (イバラノリ属 (<i>Hypnea</i>)、キリンサイ属 (<i>Eucheuma</i>)、ギンナンソウ属 (<i>Iridaea</i>)、スギノ リ属 (<i>Gigartina</i>) 又はツノマタ属 (<i>Chondrus</i>) の藻 類の全藻から得られた、ι-カラギナン、κ-カラギナ ン及びλ-カラギナンを主成分とするものをいう。) の 一つである。
	精製カラギナン		紅藻抽出物	イバラノリ科イバラノリ属 (<i>Hypnea</i>)、ミリン科キリ ンサイ属 (<i>Eucheuma</i>) 又はスギノリ科ツノマタ属 (<i>Chondrus</i>)、スギノリ属 (<i>Gigartina</i>) 若しくはギ ンナンソウ属 (<i>Iridaea</i>) の全藻より、熱時水又はアル カリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものであ る。	カラギナン (イバラノリ科イバラノリ属 (<i>Hypnea</i>)、 ミリン科キリンサイ属 (<i>Eucheuma</i>)、ギンナンソウ属 (<i>Iridaea</i>)、スギノリ属 (<i>Gigartina</i>) 又はスギノリ 科ツノマタ属 (<i>Chondrus</i>) スギノリ属 (<i>Gigartina</i>) 若しくはギンナンソウ属 (<i>Iridaea</i>) の 全藻から得られた、ι-カラギナン、κ-カラギナン及 びλ-カラギナンを主成分とするものをいう。) の一 つより、熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出し、精製 して得られたものである。ショ糖、ブドウ糖、マル トース、乳糖又はデキストリンを含むことがある。		Purified carrageenan Refined carrageenan	カラギナン (イバラノリ属 (<i>Hypnea</i>)、キリンサイ属 (<i>Eucheuma</i>)、ギンナンソウ属 (<i>Iridaea</i>)、スギノ リ属 (<i>Gigartina</i>) 又はツノマタ属 (<i>Chondrus</i>) 全藻 から得られた、ι-カラギナン、κ-カラギナン及びλ -カラギナンを主成分とするものをいう。) の一つで ある。ショ糖、ブドウ糖、マルトース、乳糖又はデキ ストリンを含むことがある。
	ユーケマ藻末		ユーケマ	ミリン科キリンサイ属 (<i>Eucheuma</i>) の全藻を、乾燥、 粉碎して得られたものである。			Powdered red algae	
62	α-ガラクトシダーゼ	メリビアーゼ	カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus</i> <i>awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus</i> <i>phoenicis</i> , <i>Mortierella</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus</i> <i>stearothermophilus</i>) の培養液より、室温時~微温時 水、酸性水溶液若しくはアルカリ性水溶液で抽出して 得られたもの、冷時含水エタノールで処理したもの、 又は除菌後、濃縮して得られたものである。		酵素	α-Galactosidase	
63	β-ガラクトシダーゼ	ラクターゼ	カルボヒドラーゼ	動物の臓器より、冷時~微温時水で抽出して得られた もの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Penicillium multicolor</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、細菌 (<i>Bacillus circulans</i> , <i>Streptococcus</i>) 若しくは酵 母 (<i>Kluyveromyces fragillus</i> , <i>Kluyveromyces</i> <i>lactis</i> , <i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時~室温 時水で抽出して得られたもの、室温時自己消化処理し て得られたもの、冷時~室温時濃縮したもの、冷時エ タノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理し て得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画し た後、脱塩処理して得られたものである。		酵素	β-Galactosidase (Lactase)	
64	カラシ抽出物 (カラシナの種子から得られた、イソ チオシアン酸アリルを主成分とするも のをいう。)	マスタード抽出物		アブラナ科カラシナ (<i>Brassica juncea</i> LINNE) の種 子の脂肪油を除いた圧搾粕より、水蒸気蒸留により得 られたものである。主成分はイソチオシアン酸アリル である。		製造用剤	Mustard extract	
65	カラメル I (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の 食用炭水化物を熱処理して得られたも のをいう。ただし、「カラメル II」、 「カラメル III」及び「カラメル IV」を 除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を、 熱処理して得られたもの、又は酸若しくはアルカリを 加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物及び アンモニウム化合物を使用していないものである。褐色 を呈する。	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を、 熱処理して得られたもの、又は酸若しくはアルカリを 加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物及び アンモニウム化合物を使用していないものである。褐色 を呈する。	着色料 製造用剤	Caramel I (plain)	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を、 熱処理して得られたもの、又は酸若しくはアルカリを 加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物及び アンモニウム化合物を使用していないものである。
66	カラメル II (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の 食用炭水化物に亜硫酸化合物を加えて 熱処理して得られたものをいう。た だし、「カラメル IV」を除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、 亜硫酸化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカ リを加えて熱処理して得られたもので、アンモニウム 化合物を使用していないものである。褐色を呈する。	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、 亜硫酸化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカ リを加えて熱処理して得られたもので、アンモニウム 化合物を使用していないものである。褐色を呈する。	着色料 製造用剤	Caramel II (caustic sulfite process)	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、 亜硫酸化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカ リを加えて熱処理して得られたもので、アンモニウム 化合物を使用していないものである。

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
67	カラメルⅢ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、アンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物を使用していないものである。褐色を呈する。	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、アンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物を使用していないものである。褐色を呈する。	着色料 製造用剤	CaramelⅢ (ammonia process)	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、アンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物を使用していないものである。
68	カラメルⅣ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたものである。褐色を呈する。	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたものである。褐色を呈する。	着色料 製造用剤	CaramelⅣ (sulfite ammonia process)	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたものである。
69	カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		カラヤ	アオギリ科カラヤ (<i>Sterculia urens</i> ROXB.) 又はベニノキ科キバナワタモドキ (<i>Cochlospermum gossypium</i> A. P. DeCandolle) の幹枝の分泌液を、乾燥して得られた多糖類である。	アオギリ科カラヤ (<i>Sterculia urens</i> Roxburgh) 又はベニノキ科キバナワタモドキ (<i>Cochlospermum gossypium</i> A. P. DeCandolle) の幹枝の分泌液から、乾燥して得られた、多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤	Karaya gum	カラヤ (<i>Sterculia urens</i> Roxburgh) 又はキバナワタモドキ (<i>Cochlospermum gossypium</i> de Candolle) の分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものである。
70	カルナウバロウ (ブラジルロウヤシの葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)	カルナウバワックス ブラジルワックス	植物ワックス	ヤシ科ブラジルロウヤシ (<i>Copernicia cerifera</i> MART.) (パーム樹) の葉より、剥ぎ取ったもの、若しくは熱湯水で分離したものを、精製して得られたものである。主成分はヒドロキシセロチン酸セリルである。	ヤシ科ブラジルロウヤシ (<i>Copernicia prunifera</i> H. E. Moore (<i>Copernicia cerifera</i> Martius) ART.) (パーム樹) の葉からより、剥ぎ取ったもの、若しくは熱湯水で分離したものを、精製して得られた、ものである。主成分はヒドロキシセロチン酸セリルを主成分とするものである。	ガムベース 光沢剤	Carnauba wax Brazil wax	ブラジルロウヤシ (<i>Copernicia prunifera</i> H. E. Moore (<i>Copernicia cerifera</i> Martius)) の葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セリルである。
71	カルボキシペプチダーゼ			イネ科コムギ (<i>Triticum aestivum</i> LINNE) の種皮及び果皮 (ふすま) より、酢酸水溶液で抽出したもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces cerevisiae</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの若しくは冷時～室温時濃縮し、冷エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Carboxypeptidase	
72	カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られたものをいう。)	カロブジャーム	カロブ フラボノイド フラボノイド色素	マメ科イナゴマメ (<i>Ceratonia siliqua</i> LINNE) の種子の胚芽を、粉砕して得られたものである。淡黄色を呈する。		着色料 製造用剤	Carob germ colour	
73	カロブビーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたものをいう。)	ローカストビーンガム	ローカスト	マメ科イナゴマメ (<i>Ceratonia siliqua</i> LINNE) の種子の胚乳部分を、粉砕して得られたもの、又はこれを熱湯水に溶解後、ろ過し、イソプロピルアルコールで沈殿して得られたものである。多糖類を含む。	マメ科イナゴマメ (<i>Ceratonia siliqua</i> Linné) の種子の胚乳部分を、粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたもの、又はこれを熱湯水に溶解後、ろ過し、イソプロピルアルコールで沈殿して得られたものである。多糖類シヨ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤	Carob bean gum Locust bean gum	イナゴマメ (<i>Ceratonia siliqua</i> Linné) の種子の胚乳部分を粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたものである。シヨ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。
74	カラワヨモギ抽出物 (カラワヨモギの全草から得られた、カピリンを主成分とするものをいう。)		カラワヨモギ	キク科カラワヨモギ (<i>Artemisia capillaris</i> THUNB.) の全草より、室温時エタノール若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留して得られたものである。有効成分はカピリン等である。		保存料	Rumput roman extract	
75	カンゾウ抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものをいう。)	カンゾウエキス グリチルリチン リコリス抽出物	カンゾウ カンゾウ甘味料 リコリス	マメ科ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> FISCHER)、マメ科チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> BATALIN) 又はマメ科ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> LINNE) の根又は根茎より、熱湯水で抽出して得られたもの又は室温時若しくは微温時アルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主甘味成分はグリチルリチン酸である。	マメ科ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> Fischer) ISCHER)、マメ科チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> Batalin) AFALIN)、又はマメ科ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> Linné) ANNE)、又はそれらの近縁植物の根若しくは又は根茎からより、熱湯水で抽出して得られたもの又は室温時若しくは微温時アルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られた、ものである。主甘味成分はグリチルリチン酸を主成分とするものである。本品には、粗製物と精製物がある。	甘味料	Licorice extract	ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> Fischer)、チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> Batalin)、ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> Linné)、又はそれらの近縁植物の根若しくは根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものである。本品には、粗製物と精製物がある。
76	カンゾウ油性抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		油性カンゾウ	マメ科ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> FISCHER)、マメ科チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> BATALIN) 又はマメ科ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> LINNE) の根又は根茎を水で洗浄した残渣より、室温時～温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。		酸化防止剤	Licorice oil extract	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
77	カンデリラロウ (カンデリラの茎から得られた、ヘントリアコンタンを主成分とするものをいう。)	カンデリラワックス キャンデリラロウ キャンデリラワックス	植物ワックス	トウダイグサ科カンデリラ (<i>Euphorbia antisiphilitica</i> ZUCC.) の茎より、熱時水で分離したものを、精製して得られたものである。主成分はヘントリアコンタンである。	トウダイグサ科カンデリラ (<i>Euphorbia antisiphilitica</i> Zuccarini) または <i>Euphorbia cerifera</i> Alcocer) の茎からより、熱時水で分離したものを、精製して得られた、ものである。主成分はヘントリアコンタンを主成分とするものである。	ガムベース 光沢剤	Candelilla wax	カンデリラ (<i>Euphorbia antisiphilitica</i> Zuccarini) または <i>Euphorbia cerifera</i> Alcocer) の茎から得られた、ヘントリアコンタンを主成分とするものである。
78	キサントガム (キサントモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	キサント多糖類 ザンサンガム	キサントガム	グラム陰性細菌 (<i>Xanthomonas campestris</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	グラム陰性細菌キサントモナス属菌 (<i>Xanthomonas campestris</i>) の培養液からより、分離して得られた、ものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤	Xanthan gum	キサントモナス属菌 (<i>Xanthomonas campestris</i>) の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものである。ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。
79	キシラナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Trichoderma koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum reesei</i> , <i>Trichoderma viride</i>) の培養液より、分離して得られたものである。		酵素	Xylanase	
80	D-キシロース		キシロース	木材又はアオイ科ワタ (<i>Gossypium arboreum</i> LINNE)、イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE)、イネ科サトウキビ (<i>Saccharum officinarum</i> LINNE) 若しくはイネ科トモロコシ (<i>Zea Mays</i> LINNE) 又はその他同属植物の茎、実又は穀より、熱時酸性水溶液で加水分解し、分離して得られたものである。成分はD-キシロースである。		甘味料	D-Xylose	定義なし
81	キチナーゼ			糸状菌 (<i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma reesei</i>)、放線菌 (<i>Amvcolatopsis orientalis</i> , <i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Aeromonas</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌後、濃縮し、硫酸アンモニウムで分画したもの、若しくはエタノールで処理したもので得られたものである。		酵素	Chitinase	
82	キチン			エビ、カニ等甲殻類の甲殻又はイカの甲を、室温時～温時酸性水溶液で炭酸カルシウムを除去した後、温時～熱時弱アルカリ性水溶液でタンパク質を除去したもので、N-アセチル-D-グルコサミンの多量体からなる。		増粘安定剤	Chitin	
83	キトサナーゼ			細菌 (<i>Aeromonas</i> , <i>Bacillus</i>) 又は糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Trichoderma reesei</i> , <i>Trichoderma viride</i> , <i>Verticillium</i>) の培養液より、除菌後、冷時～微温時濃縮したもの又はエタノール若しくはアセトンで処理して得られたものである。		酵素	Chitosanase	
84	キトサン			「キチン」を、温時～熱時水酸化ナトリウム水溶液で脱アセチル化したもので、D-グルコサミンの多量体からなる。		増粘安定剤 製造用剤	Chitosan	
85	キナ抽出物 (アカキナの樹皮から得られた、キニジン、キニーネ及びシンコニンを主成分とするものをいう。)			アカネ科アカキナ (<i>Cinchona succirubra</i> PAVON) の樹皮より、水又はエタノール等で抽出して得られたものである。有効成分はキニーネ、キニジン及びシンコニンである。		苦味料等	Redbark cinchona extract	
86	キハダ抽出物 (キハダの樹皮から得られた、ベルベリンを主成分とするものをいう。)		キハダ	ミカン科キハダ (<i>Phellodendron amurense</i> RUPR.) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はベルベリンである。		苦味料等	Phellodendron bark extract	
87	魚鱗箔 (魚類の上皮部から抽出して得られたものをいう。)			イワシ科マイワシ (<i>Sardinops melanosticta</i> TEMMINCK et SCHLEGEL)、タチウオ科タチウオ (<i>Trichiurus lepturus</i> LINNE) 又はニシン科ニシン (<i>Clupea pallasii</i> CUVIER et VALENCIENNES) の魚体の上皮部を採り、室温時水又は弱アルカリ性水溶液で洗浄後、室温時エタノールで抽出して得られたものである。主色素は不明であるが、グアニンを含む。白色～淡黄灰色を呈する。		着色料	Fish scale foil	
88	キラヤ抽出物 (キラヤの樹皮から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)	キラヤサポニン	サポニン	バラ科キラヤ (<i>Quillaja saponaria</i> MOLINA) の樹皮より、熱時水で抽出したものより得られたものである。主成分はサポニン (キラヤサポニン等) である。	バラ科キラヤ (<i>Quillaja saponaria</i> Molina) の樹皮からより、熱時水で抽出したものより得られた、ものである。主成分はサポニンを主成分とするもの (キラヤサポニン等) である。	乳化剤	Quillaja extract Quillaja extract	キラヤ (<i>Quillaja saponaria</i> Molina) の樹皮から得られた、サポニンを主成分とするものである。
89	金	金箔		¹⁹⁷ Au		着色料 製造用剤	Gold	
90	銀	銀箔		¹⁰⁷ Ag, ¹⁰⁹ Ag		着色料	Silver	
91	グァーガム (グァーの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。ただし、「グァーガム酵素分解物」を除く。)	グァーフラワー グァーガム	グァー	マメ科グァー (<i>Cyamopsis tetragonolobus</i> TAUB.) の種子の胚乳部分を、粉砕して得られたもの又はこれを温時～熱時水で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	マメ科グァー (<i>Cyamopsis tetragonolobus</i> Taubert) の種子からの胚乳部分を、粉砕して得られたもの又はこれを温時～熱時水で抽出して得られた、ものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖又はデキストリンを含むことがある。	増粘安定剤	Guar gum	グァー (<i>Cyamopsis tetragonolobus</i> Taubert) の種子から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖又はデキストリンを含むことがある。

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
92	グァーガム酵素分解物 (グァーの種子を粉砕し、分解して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	グァーフラワー酵素分解物 グァーガム酵素分解物	グァー分解物	「グァーガム」を、酵素(α-ガラクトシダーゼ、ヘミセルラーゼ)で分解して得られたものである。主成分は多糖類である。		増粘安定剤	Enzymatically hydrolyzed guar gum	
93	グアヤク脂 (ユソウボクの幹枝から得られた、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジン主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユソウボク (<i>Guaiacum officinale</i> LINNE)の幹枝を、加熱して得られたものである。有効成分は、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジンである。		酸化防止剤	Guaiac resin Guajac resin	
94	グアヤク樹脂 (ユソウボクの分泌液から得られた、α-グアヤコン酸及びβ-グアヤコン酸主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユソウボク (<i>Guaiacum officinale</i> LINNE)の分泌液を、室温時エタノールで抽出し、ろ液からエタノールを留去して得られたものである。主構成成分はα-、β-グアヤコン酸である。		ガムベース	Guajac resin (extract)	
95	クエルセチン	ケルセチン	ルチン分解物	「ルチン(抽出物)」を、酵素又は酸性水溶液で加水分解して得られたものである。成分はクエルセチンである。		酸化防止剤	Quercetin	
96	クチナシ青色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナシ クチナシ色素	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> MERRILL var. <i>grandiflora</i> HORT., <i>Gardenia jasminoides</i> ELLIS)の果実より、微温時水で抽出して得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加した後、分離して得られたものである。青色を呈する。	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill又は <i>var. grandiflora</i> HORT., <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis)の果実からより、微温時水で抽出して得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加した後、分離して得られたものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある青色を呈する。	着色料	Gardenia blue	クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill又は <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis)の果実から得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加して得られたものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
97	クチナシ赤色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナシ クチナシ色素	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> MERRILL var. <i>grandiflora</i> HORT.)の果実より、微温時水で抽出して得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加した後、分離して得られたものである。赤色を呈する。	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill又は <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis <i>var. grandiflora</i> HORT.)の果実からより、微温時水で抽出して得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加した後、分離して得られたものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある赤色を呈する。	着色料	Gardenia red	クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill又は <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis)の果実から得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加して得られたものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
98	クチナシ黄色素 (クチナシの果実から得られた、クロシン及びクロセチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 クチナシ クチナシ色素 クロシン	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> MERRILL var. <i>grandiflora</i> HORT., <i>Gardenia jasminoides</i> ELLIS)の果実より、室温時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又はこれを加水分解して得られたものである。主色素はクロシン及びクロセチンである。黄色を呈する。	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill又は <i>ERRILL var. grandiflora</i> HORT., <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis)の果実からより、室温時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又はこれを加水分解して得られたもの、主色素はクロシン及びクロセチンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある黄色を呈する。	着色料	Gardenia yellow	クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> Merrill又は <i>Gardenia jasminoides</i> Ellis)の果実から得られた、クロシン及びクロセチンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
99	グッタハンカン (グッタハンカンの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタハンカン (<i>Palaquium leiocarpum</i> BOERL.)の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したものより得られたものである。主成分はトランスポリイソブレン及びアミリンアセタートである。		ガムベース	Gutta hang kang	
100	グッタベルカ (グッタベルカの分泌液から得られた、ポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタベルカ (<i>Palaquium gutta</i> BURCK.)の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去したものより得られたものである。主成分はトランスポリイソブレンである。		ガムベース	Gutta percha	
101	クリストバル石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したクリストバル石を、粉碎乾燥、800～1200℃で焼成、又は塩酸処理して焼成したものである。		製造用剤	Cristobalite	
102	グルカナナーゼ		カルボヒドラーゼ ヘミセルラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Humicola insolens</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma viride</i>)、担子菌 (<i>Pycnoporus coccineus</i>)、細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Pseudomonas paucimobilis</i>)若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>)の培養液より、冷時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、除菌後、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は除菌後、硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。		酵素	Glucanase	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
103	グルコアミラーゼ	糖化アミラーゼ	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Acremonium</i> , <i>Aspergillus</i> , <i>Humicola grisea</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus niveus</i>)、担子菌 (<i>Corticium rolfii</i>)、細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Pseudomonas</i>) 又は酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時除菌後、濃縮したもの、冷時～室温時濃縮後、エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。		酵素	Glucoamylase	
104	グルコサミン			「キチン」を、塩酸で加水分解し、分離して得られたものである。成分はグルコサミンである。		増粘安定剤 製造用剤	Glucosamine	
105	α-グルコシダーゼ	マルターゼ		糸状菌 (<i>Absidia</i> , <i>Acremonium</i> , <i>Aspergillus</i>)、細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Pseudomonas</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	α-Glucosidase	
106	β-グルコシダーゼ	ゲンチオビアーゼ セロビアーゼ		ソテツ科ソテツ (<i>Cycas revoluta</i> THUNB.) より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus pulverulentus</i> , <i>Penicillium decumbens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma reesei</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。		酵素	β-Glucosidase	
107	α-グルコシルトランスフェラーゼ	4-α-グルカノトランスフェラーゼ 6-α-グルカノトランスフェラーゼ		細菌 (<i>Agrobacterium radiobacter</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus</i> , <i>Erwinia</i> , <i>Pimelobacter</i> , <i>Protaminobacter</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Serratia</i> , <i>Thermus</i>) の培養液又はバレイショ (<i>Solanum tuberosum</i> LINNE) の塊茎より、冷時～室温時除菌したもの、冷時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮して得られたものである。なお、基質特異性により、4-α-グルカノトランスフェラーゼ、6-α-グルカノトランスフェラーゼと呼ばれるものがある。		酵素	α-Glucosyltransferase 4-α-Glucanotransferase 6-α-Glucanotransferase	
108	α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビア (「ステビア抽出物」から得られた、α-グルコシルステビオシドを主成分とするものをいう。)	酵素処理ステビア	ステビア ステビア甘味料 糖転移ステビア	「ステビア抽出物」に、α-グルコシルトランスフェラーゼ等を用いてグルコースを付加して得られたものである。主甘味成分はα-グルコシルステビオシドである。	『ステビア抽出物』に、α-グルコシルトランスフェラーゼ等を用いてD-グルコースを付加して得られたものである。主甘味成分はα-グルコシルステビオシドを主成分とするである。	甘味料	α-Glucosyltransferase-treated stevia	「ステビア抽出物」に、α-グルコシルトランスフェラーゼを用いてD-グルコースを付加して得られたものである。α-グルコシルステビオシドを主成分とする。
109	グルコースイソメラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i>)、放線菌 (<i>Actinoplanes missouriensis</i> , <i>Streptomyces griseofuscus</i> , <i>Streptomyces murinus</i> , <i>Streptomyces phaeochromogenes</i> , <i>Streptomyces rubiginosus</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus coagulans</i>) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。		酵素	Glucose isomerase	
110	グルコースオキシダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Penicillium</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～微温時溶菌後、除菌したもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Glucose oxidase	
111	グルタミナーゼ		アミダーゼ	枯草菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、糸状菌 (<i>Aspergillus</i>) 又は酵母 (<i>Candida</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。		酵素	Glutaminase	
112	L-グルタミン		グルタミン	糖類を原料とした発酵により得られたものから分離して得られたものである。成分はL-グルタミンである。		調味料 強化剤	L-Glutamine	定義なし
113	グレープフルーツ種子抽出物 (グレープフルーツの種子から得られた、脂肪酸及びフラボノイドを主成分とするものをいう。)		グレープフルーツ種子	ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACF.) の種子より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分は脂肪酸及びフラボノイドである。		製造用剤	Grapefruit seed extract	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
114	クーロー色素 (ソメモノイモの根から抽出して得られたものをいう。)	ソメモノイモ色素	フラボノイド フラボノイド色素	ヤマノイモ科ソメモノイモ (<i>Dioscorea matsudai</i> HAYATA) の根より、熱時水、弱アルカリ性水溶液若しくはプロピレングリコールで抽出したもの、又は室温時含水エタノールで抽出して得られたものである。赤褐色を呈する。		着色料	Kooroo colour Matsudai colour	
115	クローブ抽出物 (チョウジのつぼみ、葉又は花から得られた、オイゲノールを主成分とするものをいう。)	チョウジ抽出物	チョウジ油	フトモモ科チョウジ (<i>Syzygium aromaticum</i> MERRILL et PERRY) のつぼみ、葉又は花より、エタノール又はアセトンで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留により得られたものである。主成分はオイゲノール等である。		酸化防止剤	Clove extract	
116	クロロフィリン		葉緑素	「クロロフィル」を、温時アルカリ性エタノール水溶液で加水分解し、希塩酸で中和した後、含水エタノールで抽出して得られたものである。主成分はマグネシウムクロロフィリンである。緑色を呈する。		着色料	Chlorophylline	
117	クロロフィル		葉緑素	アカザ科ホウレンソウ (<i>Spinacia oleracea</i> LINNE)、アブラナ科カブ (<i>Brassica rapa</i> LINNE)、アブラナ科ダイコン (<i>Raphanus acanthiformis</i> MOREL)、イラクサ科イラクサ (<i>Urtica ptyaphlla</i> WEDD.)、クロレラ科クロレラ (<i>Chlorella pyrenoides</i> CHIK)、クワ科クワ (<i>Morus bombycis</i> KOIDZ.)、シナノキ科タイワンツナリ (<i>Corchorus olitorius</i> LINNE)、セリ科ニンジン (<i>Daucus carota</i> LINNE)、マメ科クズ (<i>Pueraria lobata</i> OHWI.)、マメ科ムラサキウマゴヤシ (<i>Medicago sativa</i> LINNE)、ムラサキ科コンフリー (<i>Symphytum officinale</i> LEDEB.) 若しくはコレモ科スピルリナ (<i>Spirulina platensis</i> (NORD.) GEITLER) 又はその他同属植物より、室温時又は微温時エタノール、メタノール、アセトン又はアセトン水溶液で抽出して得られたものである。主色素はクロロフィルである。緑色を呈する。	緑色植物より得られた、 アカザ科ホウレンソウ (<i>Spinacia oleracea</i> LINNE)、アブラナ科カブ (<i>Brassica rapa</i> LINNE)、アブラナ科ダイコン (<i>Raphanus acanthiformis</i> MOREL)、イラクサ科イラクサ (<i>Urtica ptyaphlla</i> WEDD.)、クロレラ科クロレラ (<i>Chlorella pyrenoides</i> CHIK)、クワ科クワ (<i>Morus bombycis</i> KOIDZ.)、シナノキ科タイワンツナリ (<i>Corchorus olitorius</i> LINNE)、セリ科ニンジン (<i>Daucus carota</i> LINNE)、マメ科クズ (<i>Pueraria lobata</i> OHWI.)、マメ科ムラサキウマゴヤシ (<i>Medicago sativa</i> LINNE)、ムラサキ科コンフリー (<i>Symphytum officinale</i> LEDEB.) 若しくはコレモ科スピルリナ (<i>Spirulina platensis</i> (NORD.) GEITLER) 又はその他同属植物より、室温時又は微温時エタノール、メタノール、アセトン又はアセトン水溶液で抽出して得られたものである。主色素はクロロフィル類を主成分とするものである。食用油脂を含むことがある緑色を呈する。	着色料	Chlorophyll	緑色植物より得られた、クロロフィル類を主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
118	くん液 (サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を燃焼して発生したガス成分を捕集し、又は乾溜して得られたものをいう。)	スモークフレーバー				製造用剤	Smoke flavourings	
	木酢液			サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を、乾溜して得られたものである。			Wood vinegar Pyroigneous acid	
	リキッドスモーク			サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を、限定された空気の下で、燃焼して発生したガス成分を捕集して得られたものである。			Liquid smoke	
119	ケイソウ土		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したケイソウ土 (珪藻土) を、粉碎乾燥、800~1200℃で焼成、又は少量の炭酸アルカリ塩を加えて800~1200℃で焼成したものである。	ケイソウに由来する二酸化ケイ素で、乾燥品、焼成品及び融剤焼成品があり、それぞれをケイソウ土 (乾燥品)、ケイソウ土 (焼成品) 及びケイソウ土 (融剤焼成品) と称する。焼成品は鉱床より採掘したケイソウ土 (珪藻土) を、粉碎乾燥、800~1,200℃で焼成したものであり、融剤焼成品は、又は少量の炭酸のアルカリ塩を添加し加えて800~1,200℃で焼成したものである。融剤焼成品のうち酸洗い品については、 <u>焼成品の規定 (性状を除く) を準用する。</u>	製造用剤	Diatomaceous earth	ケイソウに由来する二酸化ケイ素で、乾燥品、焼成品及び融剤焼成品があり、それぞれをケイソウ土 (乾燥品)、ケイソウ土 (焼成品) 及びケイソウ土 (融剤焼成品) と称する。焼成品は、800~1,200℃で焼成したものであり、融剤焼成品は、少量の炭酸のアルカリ塩を添加して800~1,200℃で焼成したものである。融剤焼成品のうち酸洗い品については、焼成品の規定 (性状を除く) を準用する。
120	ゲンチアナ抽出物 (ゲンチアナの根又は根茎から得られた、アマロゲンチン及びゲンチオピクロシドを主成分とするものをいう。)			リンドウ科ゲンチアナ (<i>Gentiana lutea</i> LINNE) の根又は根茎より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。有効成分はゲンチオピクロシド (ゲンチオピクリン) 及びアマロゲンチンである。		苦味料等	Gentian root extract	
121	高級脂肪酸 (動植物性油脂又は動植物性硬化油脂を加水分解して得られたものをいう。)		脂肪酸	動植物性油脂又は動植物性硬化油脂より、加水分解したのより得られたものである。		製造用剤	Higher fatty acid	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
122	香辛料抽出物 (アサノミ、アサフェチダ、アジOWN、アニス、アンゼリカ、ウイキョウ、ウコン、オールスパイス、オレガノ、オレンジピール、カシヨウ、カシミア、カモミール、カラシナ、カルダモン、カレーリーフ、カンゾウ、キャラウエー、クチナシ、クミン、クレソン、クローブ、ケシノミ、ケーパー、コショウ、ゴマ、コリアンダー、サッサfras、サフラン、サボリー、サルビア、サンショウ、シソ、シナモン、シャロット、ジュンバーベリー、ショウガ、スターアニス、スペアミント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タイム、タマネギ、タマリンド、タラゴン、チャイブ、チャービル、ディル、トウガラシ、ナツメグ、ニガヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニク、バジル、パセリ、ハッカ、パニラ、パブリカ、ヒソップ、フェネグリーク、ペパーミント、ホースミント、マジョラム、ミョウガ、ラベンダー、リンデン、レモングラス、レモンバーム、ローズ、ローズマリー、ローレル又はワサビから抽出し、又はこれを水蒸気蒸留して得られたものをいう。ただし、「ウコン色素」、「オレガノ抽出物」、「オレンジ色素」、「カラシ抽出物」、「カンゾウ抽出物」、「カンゾウ油性抽出物」、「クチナシ黄色素」、「クローブ抽出物」、「ゴマ油不けん化物」、「シソ抽出物」、「ショウガ抽出物」「精油除去ウイキョウ抽出物」、「セイヨウワサビ抽出物」、「セージ抽出物」、「タマネギ色素」、「タマリンド色素」、「タマリンドシードガム」、「タンニン(抽出物)」、「トウガラシ色素」、「トウガラシ水性抽出物」、「ニガヨモギ抽出物」、「ニンジンカロテン」及び「ローズマリー抽出物」を除く。)	スパイス抽出物	香辛料 スパイス	アサノミ、アサフェチダ、アジOWN、アニス、アンゼリカ、ウイキョウ、ウコン、オレガノ、オールスパイス、オレンジピール、カシヨウ、カシミア、カモミール、カラシナ、カルダモン、カレーリーフ、カンゾウ、キャラウエー、クチナシ、クミン、クレソン、クローブ、ケシノミ、ケーパー、コショウ、ゴマ、コリアンダー、サッサfras、サフラン、サボリー、サルビア、サンショウ、シソ、シナモン、シャロット、ジュンバーベリー、ショウガ、スターアニス、スペアミント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タイム、タマネギ、タマリンド、タラゴン、チャイブ、チャービル、ディル、トウガラシ、ナツメグ、ニガヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニク、バジル、パセリ、ハッカ、パニラ、パブリカ、ヒソップ、フェネグリーク、ペパーミント、ホースミント、マジョラム、ミョウガ、ラベンダー、リンデン、レモングラス、レモンバーム、ローズ、ローズマリー、ローレル又はワサビから抽出し、又はこれを水蒸気蒸留して得られたものをいう。ただし、「ウコン色素」、「オレガノ抽出物」、「オレンジ色素」、「カラシ抽出物」、「カンゾウ抽出物」、「カンゾウ油性抽出物」、「クチナシ黄色素」、「クローブ抽出物」、「ゴマ油不けん化物」、「シソ抽出物」、「ショウガ抽出物」「精油除去ウイキョウ抽出物」、「セイヨウワサビ抽出物」、「セージ抽出物」、「タマネギ色素」、「タマリンド色素」、「タマリンドシードガム」、「タンニン(抽出物)」、「トウガラシ色素」、「トウガラシ水性抽出物」、「ニガヨモギ抽出物」、「ニンジンカロテン」及び「ローズマリー抽出物」を除く。)	※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。	苦味料等	Spice extracts	
123	酵素処理イソクエルシトリン (「ルチン酵素分解物」から得られた、 α -グルコシルイソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)	糖転移イソクエルシトリン	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	「ルチン酵素分解物」とでん粉又はデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加して得られたものである。主成分は α -グルコシルイソクエルシトリンである。	『ルチン酵素分解物』とでん粉又はデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてD-グルコースを付加して得られたものである。主成分は α -グルコシルイソクエルシトリンである。	酸化防止剤	Enzymatically modified isoquercitrin	「ルチン酵素分解物」とでん粉又はデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてD-グルコースを付加して得られたものである。主成分は α -グルコシルイソクエルシトリンである。
124	酵素処理ナリンジン (「ナリンジン」から得られた、 α -グルコシルナリンジンを主成分とするものをいう。)	糖転移ナリンジン	ナリンジン	「ナリンジン」とデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加させたものである。有効成分は α -グルコシルナリンジンである。		苦味料等	Enzymatically modified naringin	
125	酵素処理ヘスペリジン (「ヘスペリジン」にシクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加して得られたものをいう。)	糖転移ヘスペリジン 糖転移ビタミンP	ヘスペリジン	「ヘスペリジン」とデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加して得られたものである。	「柑橘類の果皮、果汁、又は種子より、アルカリ性水溶液で抽出して得られるヘスペリジン」とデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてD-グルコースを付加して得られたものである。	強化剤	Enzymatically modified hesperidin	柑橘類の果皮、果汁、又は種子より、アルカリ性水溶液で抽出して得られるヘスペリジンに、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてD-グルコースを付加して得られたものである。
126	酵素処理ルチン(抽出物) (「ルチン(抽出物)」から得られた、 α -グルコシルルチンを主成分とするものをいう。)	糖転移ルチン(抽出物)	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	「ルチン(抽出物)」とでん粉又はデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを α -1,4付加して得られたものである。主成分は α -グルコシルルチンである。		酸化防止剤 強化剤 着色料	Enzymatically modified rutin (extract)	
127	酵素処理レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、ホスファチジルグリセロールを主成分とするものをいう。)		レシチン	「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」とグリセリンの混合物に、ホスホリパーゼDを用いて得られたものである。主成分はホスファチジルグリセロールである。		乳化剤	Enzymatically modified lecithin	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
128	酵素分解カンゾウ (「カンゾウ抽出物」を酵素分解して得られた、グリチルレチン酸-3-グルクロニドを主成分とするものをいう。)		カンゾウ	「カンゾウ抽出物」を、酵素分解して得られたものである。主甘味成分はグリチルレチン酸-3-グルクロニドである。		甘味料	Enzymatically hydrolyzed licorice extract	
129	酵素分解リンゴ抽出物 (リンゴの果実を酵素分解して得られた、カテキン類及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)		リンゴ抽出物 リンゴエキス	バラ科リンゴ (<i>Malus pumila</i> MILLER) の果実を搾汁し、パルプを分離した後、得られた上清を酵素処理し、精製して得られたものである。有効成分はクロロゲン酸及びカテキン類である。		酸化防止剤	Enzymatically decomposed apple extract	
130	酵素分解レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、フォスファチジン酸及びリゾレシチンを主成分とするものをいう。)		レシチン	「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」を、水又はアルカリ性水溶液でpH調整後、室温時～温時酵素分解して得られたもの、又はこれをエタノール、イソプロピルアルコール若しくはアセトンで抽出して得られたものである。なお、卵黄から引きつづき製造されることもある。主成分はリゾレシチン及びフォスファチジン酸である。	→アブラナ (<i>Brassica rapa</i> Linné又は <i>Brassica napus</i> Linné) 若しくはダイズ (<i>Glycine max</i> Merrill) の種子から得られた植物レシチン→又は「卵黄から得られた卵黄レシチンから」を、水又はアルカリ性水溶液でpH調整後、室温時～温時酵素分解して得られたもの、又はこれをエタノール、イソプロピルアルコール若しくはアセトンで抽出して得られたものである。なお、卵黄から引きつづき製造されることもある。主成分はホスファチジン酸及びリゾレシチンを主成分とするもの及びフォスファチジン酸である。酵素分解植物レシチンと酵素分解卵黄レシチンがある。	乳化剤	Enzymatically decomposed lecithin	アブラナ (<i>Brassica rapa</i> Linné又は <i>Brassica napus</i> Linné) 若しくはダイズ (<i>Glycine max</i> Merrill) の種子から得られた植物レシチン又は卵黄から得られた卵黄レシチンから得られた、ホスファチジン酸及びリゾレシチンを主成分とするものである。酵素分解植物レシチンと酵素分解卵黄レシチンがある。
131	酵母細胞壁 (サッカロミセスの細胞壁から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	酵母細胞膜		酵母 (<i>Saccharomyces cerevisiae</i>) を、自己消化させて分離した細胞壁、又はこれを脱色したものである。主成分は多糖類である。	サッカロミセス属菌酵母 (<i>Saccharomyces cerevisiae</i>) のを、自己消化させて分離した細胞壁から得られた、又はこれを脱色したものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤 製造用剤	Yeast cell wall	サッカロミセス属菌 (<i>Saccharomyces cerevisiae</i>) の細胞壁から得られた、多糖類を主成分とするものである。
132	コウリヤン色素 (コウリヤンの種子から得られた、アピゲニニン及びルテオリニンジンを主成分とするものをいう。)	キビ色素	フラボノイド フラボノイド色素	イネ科コウリヤン (<i>Sorghum nervosum</i> BESS.) の実及び穀より、温時～熱時水、含水エタノール若しくは酸性含水エタノールで抽出して得られたもの、又は室温時～温時アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はアピゲニニン及びルテオリニンジンである。赤褐色を呈する。		着色料	Kaoliang colour	
133	コチニール色素 (エンジムシから得られた、カルミン酸を主成分とするものをいう。)	カルミン酸色素	カルミン酸 コチニール	カイガラムシ科エンジムシ (<i>Coccus cacti</i> LINNE (<i>Dactylopius coccus</i> COSTA)) の乾燥体より、温時～熱時水で、又は温時含水エタノールで抽出して得られたものである。主色素はカルミン酸である。橙色～赤紫色を呈する。	カイガラムシ科エンジムシ (<i>Coccus cacti</i> LINNE (<i>Dactylopius coccus</i> COSTA)) の乾燥体より、温時～熱時水で、又は温時含水エタノールで抽出して得られた、ものである。主色素はカルミン酸を主成分とするものである。橙色～赤紫色を呈する。	着色料	Cochineal extract Carminic acid	エンジムシ (<i>Dactylopius coccus</i> Costa) (<i>Coccus cacti</i> Linnaeus) から得られた、カルミン酸を主成分とするものである。
134	骨炭 (ウシの骨から得られた、炭末及びリン酸カルシウムを主成分とするものをいう。)			ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE) の骨を、炭化し、粉碎して得られたものである。主成分はリン酸カルシウム及び炭末である。	ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> Linné) の骨を、炭化し、粉碎して得られたものである。主成分はリン酸カルシウム及び炭末である。	製造用剤	Bone charcoal	ウシ (<i>Bos taurus</i> Linné) の骨を、炭化し、粉碎して得られたものである。主成分はリン酸カルシウム及び炭末である。
135	骨炭色素 (骨を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE var. <i>domesticus</i> GEMEL.) 等の骨を、炭化した物である。主色素は炭素である。黒色を呈する。		着色料	Bone carbon black	
136	ゴマ油不けん化物 (ゴマの種子から得られた、セサモリンを主成分とするものをいう。)		ゴマ油抽出物	ゴマ科ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> LINNE) の種子又は種子の搾油槽より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセサモリンである。		酸化防止剤	Sesame seed oil unsaponified matter	
137	ゴマ柄灰抽出物 (ゴマの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)			ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> LINNE) の茎又は葉を灰化し、室温時水で抽出し、上澄み液をろ過して得られたものである。		製造用剤	Sesame straw ash extract	
138	ゴム (パラゴムの分泌液から得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。ただし、「低分子ゴム」を除く。)	カウチョック		トウダイグサ科パラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを酸性水溶液で凝固させ、水洗、脱水したものより得られたものである。主成分はシスポリイソブレンである。		ゴムベース	Rubber	
139	ゴム分解樹脂 (「ゴム」から得られた、ジテルペン、トリテルペン及びテトラテルペンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科パラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解したもの、又は酵素分解して得られた低分子の樹脂状物質である。主成分はC ₂₀ ～C ₄₀ のテルペノイドである。		ゴムベース	Resin of depolymerized natural rubber	
140	コメヌカ油抽出物 (米ぬか油から得られた、フェルラ酸を主成分とするものをいう。)	コメヌカ油不けん化物		イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか油の不けん化物より、エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はフェルラ酸である。		酸化防止剤	Rice bran oil extract	
141	コメヌカ酵素分解物 (脱脂米ぬかから得られた、フィチン酸及びペプチドを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる脱脂米ぬかを酵素分解したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はペプチド及びフィチン酸である。		酸化防止剤	Enzymatically decomposed rice bran	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
142	コメヌカロウ (米ぬか油から得られた、リグノセリン酸ミリシルを主成分とするものをいう。)	コメヌカワックス ライスワックス	植物ワックス	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか油より、分離して得られたものである。主成分はリグノセリン酸ミリシルである。		ガムベース 光沢剤	Rice bran wax	
143	サイリウムシードガム (ブロンドサイリウムの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	サイリウムハスク	サイリウム	オオバコ科ブロンドサイリウム (<i>Plantago ovata</i> FORSK.) の種子の外皮を、粉碎して得られたもの又はこれを温時～熱時水で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	オオバコ科 ブロンドサイリウム (<i>Plantago ovata</i> Forsskal) の種皮からの外皮を、 粉碎して得られたもの又はこれを温時～熱時水で抽出して得られた、ものである。主成分は多糖類を主成分とするものをいうのである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤	Psyllium seed gum	ブロンドサイリウム (<i>Plantago ovata</i> Forsskal) の種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。
144	サトウキビロウ (サトウキビの茎から得られた、パルミチン酸ミリシルを主成分とするものをいう。)	カーンワックス ケーンワックス	植物ワックス	イネ科サトウキビ (<i>Saccharum officinarum</i> LINNE) の茎の搾汁残渣より、分離、精製して得られたものである。主成分はパルミチン酸ミリシルである。		ガムベース 光沢剤	Cane wax	
145	サバクヨモギシードガム (サバクヨモギの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アルテミシアシードガム サバクヨモギ種子多糖類		キク科サバクヨモギ (<i>Artemisia halodendron</i> TURCZ. ex BESS., <i>Artemisia ordosica</i> KRASCHEN., <i>Artemisia sphaerocephala</i> KRASCH) の種子の外皮を、脱脂、乾燥して得られたものである。主成分は、 α -セルロースを基本骨格に持つ、中性多糖類及び酸性多糖類である。		製造用剤 増粘安定剤	<i>Artemisia sphaerocephala</i> seed gum <i>Artemisia</i> seed gum	
146	酸性白土		不溶性鉱物性物質	モンモリロナイト系粘土鉱物を、精製して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	モンモリロナイト系粘土鉱物を、 精製して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	製造用剤	Acid clay	モンモリロナイト系粘土鉱物を精製して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。
147	酸性ホスファターゼ	ホスホモノエステラーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i>) の培養液より、冷時～温時水で抽出し、除菌した後、冷時～室温時濃縮し、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Acid phosphatase	
148	酸素			O ₂		製造用剤	Oxygen	
149	シアナット色素 (シアノキの果実又は種皮から抽出して得られたものをいう。)		シアナット フラボノイド フラボノイド色素	アカテツ科シアノキ (<i>Butyrospermum parkii</i> KOTSCHY.) の果実又は種皮より、室温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。褐色を呈する。		着色料	Shea nut colour	
150	シアノコバラミン	ビタミンB ₁₂	V. B ₁₂	放線菌 (<i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Agrobacterium</i> , <i>Bacillus</i> , <i>Flavobacterium</i> , <i>Propionibacterium</i> , <i>Rhizobium</i>) の培養液より、分離して得られたものである。成分はシアノコバラミンである。	放線菌 (<i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Agrobacterium</i> , <i>Bacillus</i> , <i>Flavobacterium</i> , <i>Propionibacterium</i> 又は , <i>Rhizobium</i>) の培養液より、分離して得られたものである。成分はシアノコバラミンである。	強化剤	Cyanocobalamin Vitamin B ₁₂	放線菌 (<i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Agrobacterium</i> , <i>Bacillus</i> , <i>Flavobacterium</i> , <i>Propionibacterium</i> 又は , <i>Rhizobium</i>) の培養液より、分離して得られたものである。成分はシアノコバラミンである。
151	シェラック (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、アレウリチン酸とシェロール酸又はアレウリチン酸とジャラル酸のエステルを主成分とするものをいう。)	セラック		カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、温時アルカリ性水溶液で抽出し、漂白したものより得られたものである。主成分はアレウリチン酸とジャラル酸又はアレウリチン酸とシェロール酸のエステル等である。	ラックカイガラムシ (<i>Laccifer</i> spp.) の分泌液から得られた、アレウリチン酸とシェロール酸又はアレウリチン酸とジャラル酸のエステルを主成分とするものである。白シェラック及び精製シェラックがあり、ロウ分を除去していない含ロウ品及びロウ分を除去した脱ロウ品がある。	ガムベース 光沢剤	Shellac	ラックカイガラムシ (<i>Laccifer</i> spp.) の分泌液から得られた、アレウリチン酸とシェロール酸又はアレウリチン酸とジャラル酸のエステルを主成分とするものである。白シェラック及び精製シェラックがあり、ロウ分を除去していない含ロウ品及びロウ分を除去した脱ロウ品がある。
	白シェラック	白セラック 白ラック		カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温時エタノールで抽出又は温時アルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主成分はアレウリチン酸とジャラル酸又はアレウリチン酸とシェロール酸のエステル等である。			White shellac	
	精製シェラック	精製セラック		カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温時エタノールで抽出又は温時アルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主成分はアレウリチン酸とジャラル酸又はアレウリチン酸とシェロール酸のエステル等である。			Purified shellac	
152	シェラックロウ (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ろう分を主成分とするものをいう。)	セラックロウ		カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温時エタノール又は温時アルカリ性水溶液に溶解し、ろ液からロウ分を分離して得られたものである。主成分は樹脂酸エステルである。		ガムベース 光沢剤	Shellac wax	
153	ジェランガム (シュドモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ジェラン多糖類	ジェラン	グラム陰性細菌 (<i>Pseudomonas elodea</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	スフィンゴモナス属菌 (<i>Sphingomonas elodea</i>) グラム陰性細菌 (<i>Pseudomonas elodea</i>) の培養液からより、分離して得られた、ものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤	Gellan gum	スフィンゴモナス属菌 (<i>Sphingomonas elodea</i>) の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものである。
154	ジェルトン (ジェルトンの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ポンチアナック		キョウチクトウ科ジェルトン (<i>Dvera costulata</i> HOOK F., <i>Dvera lowii</i> HOOK F.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソブレンである。		ガムベース	Jelutong	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
155	シクロデキストリン	サイクロデキストリン 分岐サイクロデキストリン 分岐シクロデキストリン	環状オリゴ糖	デンプンを、酵素処理し、非還元性環状デキストリンとして得られたものである。成分はシクロデキストリンである。		製造用剤	Cyclodextrin	
156	シクロデキストリングルカノトランスフェラーゼ	シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼ	トランスフェラーゼ	細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Brevibacterium</i> , <i>Cornebacterium</i>) の培養液より、冷時～室温水で抽出して得られたもの、又は除菌後、冷時～室温時濃縮したもの、又はこれを、含水エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Cyclodextrin glucanotransferase	
157	L-シスチン		シスチン	動物性タンパク質（特に動物毛、羽毛）を、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-シスチンである。		調味料 強化剤	L-Cystine	定義なし
158	シソ抽出物 (シソの種子又は葉から得られた、テルペノイドを主成分とするものをいう。)	シソエキス		シソ科シソ (<i>Perilla crispa</i> TANAKA) の種子又は葉より、酸性水溶液又は温時含水エタノールで抽出したものから得られたものである。主成分はテルペノイドである。		製造用剤	Perilla extract	
159	シタン色素 (シタンの幹枝から得られた、サンタリンを主成分とするものをいう。)	サンダルウッド色素	サンダルウッド フラボノイド フラボノイド色素	マメ科シタン (<i>Pterocarpus santalinus</i> LINNE) の幹枝より、水、熱時プロピレングルコール又は温時エタノールで抽出して得られたものである。主色素はサンタリンである。紫赤色を呈する。		着色料	Sandalwood red	
160	5'-シチジル酸		5'-CMP	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、食塩存在下熱時水で抽出した核酸を酵素で加水分解後、分離して得られたものである。成分は5'-シチジル酸である。	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、食塩存在下、 熱時 水で抽出した核酸を酵素で加水分解した後、分離して得られたものである。成分は5'-シチジル酸である。	強化剤	5'-Cytidylic acid	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、食塩存在下、水で抽出した核酸を酵素で加水分解した後、分離して得られたものである。成分は5'-シチジル酸である。
161	ジャマイカカссия抽出物 (ジャマイカカссияの幹枝又は樹皮から得られた、クアシン及びネオクアシンを主成分とするものをいう。)	カссияエキス	カссия	ニガキ科ジャマイカカссия (<i>Quassia excelsa</i> SW.) の幹枝又は樹皮より、水で抽出して得られたものである。有効成分はクアシン及びネオクアシンである。		苦味料等	Jamaica quassia extract	
162	ショウガ抽出物 (ショウガの根茎から得られた、ショウガオール及びジゲロールを主成分とするものをいう。)	ジンジャー抽出物		ショウガ科ショウガ (<i>Zingiber officinale</i> ROSC.) の根茎より、室温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はジゲロール類及びショウガオール類である。		製造用剤	Ginger extract	
163	焼成カルシウム (うに殻、貝殻、造礁サンゴ、ホエイ、骨又は卵殻を焼成して得られた、カルシウム化合物を主成分とするものをいう。)		焼成Ca			強化剤 製造用剤	Calcinated calcium	
	うに殻焼成カルシウム		うに殻カルシウム うに殻Ca	うに殻を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。			Calcinated sea urchin shell calcium	
	貝殻焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	貝殻を、焼成して得られたものである。成分は酸化カルシウムである。	貝殻を、 焼成 して得られたものである。成分は酸化カルシウムである。		Calcinated shell calcium	貝殻を焼成して得られたものである。成分は酸化カルシウムである。
	骨焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca	獣骨又は魚骨を、焼成して得られたものである。成分はリン酸カルシウムである。			Calcinated bone calcium	
	造礁サンゴ焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	イシサンゴ目の (<i>Scleractinia</i>) の造礁サンゴを、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。			Calcinated coral calcium	
	乳清焼成カルシウム	乳清第三リン酸カルシウム ホエイ第三リン酸カルシウム ホエイリン酸三カルシウム	乳清リン酸カルシウム 乳清リン酸Ca ホエイリン酸カルシウム ホエイリン酸Ca	乳清 (酸カゼインホエイ) より乳清タンパクと乳糖を分離、除去したものを、精製し焼成して得られたものである。主成分はリン酸三カルシウムである。			Tricalcium phosphate	
	卵殻焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	卵殻を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。	卵殻を、 焼成 して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		Calcinated eggshell calcium	卵殻を焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。
164	植物性ステロール (油糧種子から得られた、フィトステロールを主成分とするものをいう。)	フィトステロール	ステロール	油糧種子を粉砕し、抽出して得られた植物性油脂より、室温時～温時メタノール、エタノール、イソプロパノール、酢酸エチル、アセトン、又はヘキサンで抽出したものより得られたものである。主成分はフィトステロールである。		乳化剤	Vegetable sterol	
165	植物炭末色素 (植物を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	植物を、水蒸気賦活法で高温に加熱し炭化したものである。主色素は炭素である。黒色を呈する。		着色料	Vegetable carbon black	
166	植物レシチン (アブラナ又はダイズの種子から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		アブラナ科アブラナ (<i>Brassica campestris</i> LINNE)、マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子より得られた油脂より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。		乳化剤	Vegetable lecithin	※「レシチン」として規格設定。

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
167	しらこたん白抽出物 (魚類の精巢から得られた、塩基性タンパク質を主成分とするものをいう。)	しらこたん白 しらこ分解物 プロタミン	核たん白 しらこ	アイナメ科アイナメ (<i>Hexagrammos otakii</i> JORDAN et STARKS)、サケ科カラフトマス (<i>Oncorhynchus gorbuscha</i> WALBAUM)、サケ科シロザケ (<i>Oncorhynchus keta</i> WALBAUM)、サケ科ベニサケ (<i>Oncorhynchus nerka</i> WALBAUM)、サバ科カツオ (<i>Katsuwonus pelamis</i> LINNAEUS) 若しくはニシン科ニシン (<i>Clupea pallasii</i> VALENCIENNES) の精巢(しらこ)中の核酸及び塩基性タンパク質を、室温時酸性水溶液で分解後、中和して得られたものである。主成分は塩基性タンパク質(プロタミンヒストン)である。	アイナメ科アイナメ (<i>Hexagrammos otakii</i> Jordan et Starks)、サケ科カラフトマス (<i>Oncorhynchus gorbuscha</i> (Walbaum)), サケ科シロザケ (<i>Oncorhynchus keta</i> (Walbaum)), サケ科ベニサケ (<i>Oncorhynchus nerka</i> (Walbaum)), サバ科カツオ (<i>Katsuwonus pelamis</i> (Linnaeus)) 又は若しくはニシン科ニシン (<i>Clupea pallasii</i> Valenciennes) の精巢から(しらこ)中の核酸及び塩基性タンパク質を、室温時酸性水溶液で分解後、中和して得られた、ものである。主成分は塩基性タンパク質(プロタミンヒストン)を主成分とするものである。	保存料	Milt protein	アイナメ (<i>Hexagrammos otakii</i> Jordan et Starks)、カラフトマス (<i>Oncorhynchus gorbuscha</i> (Walbaum))、シロザケ (<i>Oncorhynchus keta</i> (Walbaum))、ベニサケ (<i>Oncorhynchus nerka</i> (Walbaum))、カツオ (<i>Katsuwonus pelamis</i> (Linnaeus)) 又はニシン (<i>Clupea pallasii</i> Valenciennes) の精巢から得られた、塩基性タンパク質を主成分とするものである。
168	水素			H ₂		製造用剤	Hydrogen	
169	ステビア抽出物 (ステビアの葉から抽出して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)	ステビアエキス ステビオサイド ステビオシド レバウジオシド レバウディオサイド	ステビア ステビア甘味料	キク科ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> BERTONI) の葉より、室温時～熱時水で抽出し、精製して得られたものである。主甘味成分はステビオール配糖体(ステビオシド及びレバウジオシド等)である。	キク科ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> Bertoni) の葉からより、室温時～熱時水で抽出し、精製して得られた、ものである。主甘味成分はステビオール配糖体(ステビオシド及びレバウジオシド等)を主成分とするものである。	甘味料	Stevia extract	ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> Bertoni) の葉から抽出して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものである。
170	ステビア末 (ステビアの葉を粉砕して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)		ステビア	キク科ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> BERTONI) の葉を、粉末としたものである。主甘味成分はステビオール配糖体(ステビオシド及びレバウジオシド)である。		甘味料	Powdered stevia	
171	スピルリナ色素 (スピルリナ的全藻から得られた、フィコシアニンを主成分とするものをいう。)	スピルリナ青色素	スピルリナ青	ユレモ科スピルリナ (<i>Spirulina platensis</i> (NORD.) GEITLER) の全藻より、室温時水で抽出して得られたものである。主色素はフィコシアニンである。青色を呈する。	ユレモ科スピルリナ (<i>Spirulina platensis</i> (NORD.) Geitler) の全藻からより、室温時水で抽出して得られた、ものである。主色素はフィコシアニンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある青色を呈する。	着色料	Spirulina colour	スピルリナ (<i>Spirulina platensis</i> Geitler) の全藻から得られた、フィコシアニンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
172	スフィンゴ脂質 (米ぬかから得られた、スフィンゴシン誘導体を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子又は小麦 (<i>Triticum aestivum</i> LINNE) の胚芽から得られた米ぬかより、室温時～温時エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出したものより得られたものである。主成分はスフィンゴシン誘導体である。		乳化剤	Sphingolipid	
173	生石灰			石灰石を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		製造用剤	Quicklime	
174	精油除去ウイキョウ抽出物 (ウイキョウの種子から得られた、グルコシルシナビルアルコールを主成分とするものをいう。)	精油除去フェネル抽出物		セリ科ウイキョウ (<i>Foeniculum vulgare</i> LINNE) の種子を水蒸気蒸留した残渣より、熱時水で抽出し、濃縮して得られたものである。主成分は4-O- α -D-グルコシルシナビルアルコールである。		酸化防止剤	Essential oil-removed fennel extract	
175	セイヨウワサビ抽出物 (セイヨウワサビの根から得られた、イソチオシアナートを主成分とするものをいう。)	ホースラディッシュ抽出物		アブラナ科セイヨウワサビ (<i>Armoracia rusticana</i> P. GAERTN., B. MEYER et SCHERB.) の根を、粉砕後、水蒸気蒸留で抽出して得られたものである。主成分はイソチオシアナートである。		酸化防止剤 製造用剤	Horseradish extract	
176	ゼイン (トウモロコシの種子から得られた、植物性タンパク質を主成分とするものをいう。)	トウモロコシたん白		イネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子を粉末化したものより、エタノール又はアセトンで抽出し、精製して得られたものである。主成分はプロラミンに属する植物性タンパク質である。		製造用剤	Zein	
177	ゼオライト		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したゼオライトを精製して得られたものである。主成分は結晶性アルミノケイ酸塩である。		製造用剤	Zeolite	
178	セージ抽出物 (サルビアの葉から得られた、カルノシン酸及びフェノール性ジテルペンを主成分とするものをいう。)			シソ科サルビア (<i>Salvia officinalis</i> LINNE) の葉より、水、エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。有効成分はフェノール性ジテルペノイド(ジテルペン)及びカルノシン酸である。		酸化防止剤	Sage extract	
179	セピオライト			鉱石セピオライトを、粉砕して得られたものである。主成分はイノケイ酸のマグネシウム塩である。		製造用剤	Sepiolite	
180	L-セリン		セリン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-セリンである。		調味料 強化剤	L-Serine	定義なし

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
181	セルラーゼ	繊維素分解酵素	カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Acremonium cellulolyticus</i> , <i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Hemicola insolens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma insolens</i> , <i>Trichoderma koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma reesei</i> , <i>Trichoderma viride</i>)、担子菌 (<i>Corticium</i> , <i>Irpeck</i> , <i>Pycnoporus coccineus</i>)、放線菌 (<i>Actinomyces</i> , <i>Streptomyces</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus circulans</i> , <i>Bacillus subtilis</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Cellulase	
182	粗製海水塩化カリウム (海水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化カリウムを主成分とするものをいう。)			海水を、濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離させた後、そのろ液を、室温まで冷却し、析出分離させたものである。主成分は塩化カリウムである。		調味料	Crude potassium chloride (sea water)	
183	粗製海水塩化マグネシウム (海水から塩化カリウム及び塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化マグネシウムを主成分とするものをいう。)	塩化マグネシウム含有物		海水より、塩化ナトリウムを析出分離し、その母液を冷却して析出する塩化カリウム等を分離した残りのものである。主成分は塩化マグネシウムである。	※規格を施行していないので、旧リストのままとする。	製造用剤	Crude magnesium chloride (sea water)	海水から塩化カリウム及び塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化マグネシウムを主成分とするものである。
184	ソバ柄灰抽出物 (ソバの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)		植物灰抽出物	タデ科ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH.) の茎又は葉を灰化したものより、熱時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。		製造用剤	Buckwheat ash extract	
185	ソルバ (ソルバの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ベリージョ ベンダーレ レッチェカスピ		キョウチクトウ科ソルバ (<i>Couma macrocarpa</i> BARB. RODR.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。		ガムベース	Sorva Leche caspi	
186	ソルビンハ (ソルビンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ソルバペケーニヤ		キョウチクトウ科ソルビンハ (<i>Couma utilis</i> MUELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。		ガムベース	Sorvinha	
187	ダイズサポニン (ダイズの種子から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)		サポニン	マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を粉砕し、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたものである。主成分はサポニン (ソヤサポニン等) である。		乳化剤	Soybean saponin	
188	タウマチン (タウマトコッカスダニエリの種子から得られた、タウマチンを主成分とするものをいう。)	ソーマチン		クズウコン科タウマトコッカス・ダニエリ (<i>Thaumatococcus daniellii</i> BENTH) の種子より、室温時酸性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主甘味成分はタウマチンである。	クズウコン科タウマトコッカス・ダニエリ (<i>Thaumatococcus daniellii</i> BenthamENTH) の種子からより、室温時酸性水溶液で抽出し、精製して得られた、ものである。主甘味成分はタウマチンを主成分とするものである。	甘味料	Thaumatococcus daniellii Bentham	タウマトコッカス・ダニエリ (<i>Thaumatococcus daniellii</i> Bentham) の種子から得られた、タウマチンを主成分とするものである。
189	タウリン (抽出物) (魚類又はほ乳類の臓器又は肉から得られた、タウリンを主成分とするものをいう。)		タウリン	魚類又はほ乳類の臓器又は肉より、水で抽出し、精製して得られたものである。主成分はタウリンである。	魚介類又は哺乳動物ほ乳類の臓器又は肉からより、水で抽出し、精製して得られた、ものである。主成分はタウリンを主成分とするものである。	調味料	Taurine (extract)	魚介類又は哺乳動物の臓器又は肉から得られた、タウリンを主成分とするものである。
190	タマネギ色素 (タマネギのりん茎から得られた、クエルセチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素 野菜色素	ユリ科タマネギ (<i>Allium cepa</i> LINNE) のりん茎より、温時～熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はクエルセチンである。黄色を呈する。		着色料	Onion colour	
191	タマリンド色素 (タマリンドの種子から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素	マメ科タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> LINNE) の種子を焙焼したものより、温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。赤褐色を呈する。		着色料	Tamarind colour	
192	タマリンドシードガム (タマリンドの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	タマリンドガム タマリンド種子多糖類	タマリンド	マメ科タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> LINNE) の種子の胚乳部分より、温時～熱時水若しくはアルカリ性水溶液で抽出して得られたもの又はこれを酵素 (β -ガラクトシダーゼ、ラクターゼ) 処理したものである。主成分は多糖類である。	マメ科タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> LinnéLINNE) の種子からの胚乳部分より、温時～熱時水若しくはアルカリ性水溶液で抽出して得られた、もの又はこれを酵素 (β -ガラクトシダーゼ、ラクターゼ) 処理したものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤	Tamarind seed gum	タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> Linné) の種子から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考 食品添加物公定書(第8版)
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			
193	タラガム (タラの種子から得られた、多糖類を 主成分とするものをいう。)			マメ科タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> (MOL.) (O. KUNTZE)) の種子の胚乳部分を、粉碎して得られ たもの又はこれを温時～熱時水で抽出して得られたも のである。主成分は多糖類である。	マメ科タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> (MOL.) (O. KUNTZE)) の種子からの胚乳部分を、粉碎 して得られた、もの又はこれを温時～熱時水で抽出し て得られたものである。主成分は多糖類を主成分とす るものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリ ン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤	Tara gum	タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> Kuntze) の種子から得ら れた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブ ドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むこ とがある。
194	タルク		不溶性鉱物性物質	カンラン岩、輝石、又はドロマイト若しくはマグネ サイトの滑石片岩等より、混在物を除き、微粉末化し たものである。主成分は含水ケイ酸マグネシウムであ る。	カンラン岩、輝石、又はドロマイト若しくはマグネ サイトの滑石片岩等より、混在物を除き、微粉末化し たものである。主成分は天然の含水ケイ酸マグネシウ ムを精選したもので、ときに少量のケイ酸アルミニウ ムを含むである。	ガムベース 製造用剤	Talc	天然の含水ケイ酸マグネシウムを精選したもので、と きに少量のケイ酸アルミニウムを含む。
195	胆汁末 (胆汁から得られた、コール酸及びデ ソキシコール酸を主成分とするものを いう。)	コール酸 デソキシコール酸		動物の胆汁を、粉末化して得られたものである。主成 分はコール酸及びデソキシコール酸である。		乳化剤	Powdered bile	
196	単糖・アミノ酸複合物 (アミノ酸と単糖類の混合物を加熱し て得られたものをいう。)		糖・アミノ酸複合物	アミノ酸と単糖類の混合液を、常圧下で加熱して得ら れたものである。		酸化防止剤	Amino acid-sugar reaction product	
197	タンナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i>) の培養液より、冷時～ 室温時水で抽出して得られたもの、又は濃縮後、冷時 ～室温時エタノール若しくは含水エタノールで処理し て得られたものである。		酵素	Tannase	
198	タンニン (抽出物) (カキの果実、五倍子、タラ末、没食 子又はミモザの樹皮から得られた、タ ンニン及びタンニン酸を主成分とする ものをいう。)	タンニン酸 (抽出 物)	タンニン タンニン酸			製造用剤	Tannin (extract)	
	柿タンニン	柿渋 柿抽出物		カキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の実より、搾 汁したもの、又は水若しくはエタノールで抽出して得 られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸 である。			Tannin of persimmon	
	植物タンニン			五倍子、タラ末又は没食子より、温時水で抽出して得 られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸 である。	五倍子、タラ末又は没食子からより、温時水で抽出し て得られた、ものである。主成分はタンニン及びタン ニン酸を主成分とするものである。		Vegetable tannin	五倍子、タラ末又は没食子から得られた、タンニン及 びタンニン酸を主成分とするものである。
	ミモザタンニン			マメ科ミモザ (<i>Acacia dealbata</i> LINNE) の樹皮よ り、水又はエタノールで抽出して得られたものである。 主成分はタンニン及びタンニン酸である。			Tannin of silver wattle	
199	チクル (サボジラの分泌液から得られた、ア ミリンアセタート及びポリイソブレン を主成分とするものをいう。)	クラウンガム チクブル ニスペロ		アカテツ科サボジラ (<i>Achras zapota</i> LINNE) の幹枝 より得られたラテックスを、脱水したのより得られ たものである。主成分はアミリンアセタート及びポリ イソブレンである。		ガムベース	Chicle Chiquibul Crown gum Nispero	
200	窒素			N ₂		製造用剤	Nitrogen	
201	チャ乾留物 (チャの葉を乾留して得られたものを いう。)			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より 製した茶を、乾留して得られたものである。有効成分 は特定できないが、アミノ酸、カフェイン、タンニ ン、カテキン類を含む。		製造用剤	Tea dry distillate	
202	チャ抽出物 (チャの葉から得られた、カテキン類 を主成分とするものをいう。)	ウーロンチャ抽出物 緑茶抽出物		ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉よ り製した茶より、室温時、温時又は熱時、水、酸性水 溶液、含水エタノール、エタノール、含水メタノー ル、メタノール、アセトン、酢酸エチル又はグリセリ ン水溶液で抽出したものより得られたものである。成 分としてカテキン類を含む。なお、チャの葉の処理方 法によりウーロンチャ抽出物と呼ばれるものがある。		酸化防止剤 製造用剤	Tea extract	
203	チルテ (チルテの分泌液から得られた、アミ リンアセタート及びポリイソブレンを 主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科チルテ (<i>Cnidioscolus elasticus</i> LUNDELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水 で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。 主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンであ る。		ガムベース	Chilte	
204	L-チロシン	L-チロジン	チロシン チロジン	動物性若しくは植物性タンパク質の加水分解により、 又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分 離して得られたものである。成分はL-チロシンであ る。		調味料 強化剤	L-Tyrosine	定義なし
205	ツヌー (ツヌーの分泌液から得られた、アミ リンアセタート及びポリイソブレンを 主成分とするものをいう。)			クワ科ツヌー (<i>Castilla fallax</i> COOK) の幹枝より得 られたラテックスを、脱水したのより得られたもの である。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブ レンである。		ガムベース	Tunu	

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
206	ツヤプリシン(抽出物) (ヒバの幹枝又は根から得られた、ツヤプリシン類を主成分とするものをいう。)	ヒノキチオール(抽出物)	ヒノキチオール	ヒノキ科ヒバ(<i>Thuiopsis dolabrata</i> SIEB. et ZUCC.)の幹枝又は株根より水蒸気蒸留して得られたものを、室温時アルカリ性水溶液で精油を除去し、中和後、ヘキサンで再結晶させた後、溶媒を除去したものである。主成分はβ-ツヤプリシンである。	ヒノキ科アスナロ(ヒバ)(<i>Thuiopsis dolabrata</i> Siebold et Zuccarini)の幹枝又は株根から得られた、より水蒸気蒸留して得られたものを、室温時アルカリ性水溶液で精油を除去し、中和後、ヘキサンで再結晶させた後、溶媒を除去したものである。主成分はβ-ツヤプリシン類を主成分とするものである。	保存料	Thujaplicin (extract) Hinokitiol(extract)	アスナロ(ヒバ)(<i>Thuiopsis dolabrata</i> Siebold et Zuccarini)の幹枝又は根から得られた、ツヤプリシン類を主成分とするものである。
207	5'-デアミナーゼ			糸状菌(<i>Aspergillus melleus</i> , <i>Aspergillus oryzae</i>)の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	5'-Deaminase	
208	低分子ゴム (バラゴムの分泌液を分解して得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科バラゴム(<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.)の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解して得られたもの、又は酵素分解して得られたものである。主成分はシスポリイソプレンである。		ガムベース	Depolymerized natural rubber	
209	テオブロミン			アオギリ科カカオ(<i>Theobroma cacao</i> LINNE)の種子、アオギリ科コーラ(<i>Cola acuminata</i> SCHOTT et ENDL.)の種子又はツバキ科チャ(<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.)の葉より、水又はエタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はテオブロミンである。		苦味料等	Theobromine	
210	デキストラナーゼ			糸状菌(<i>Chaetomium erraticum</i> , <i>Chaetomium gracile</i> , <i>Penicillium lilacinum</i>)の培養液より、冷時～室温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、除菌後、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Dextranase	
211	デキストラン		ブドウ糖多糖	グラム陽性細菌(<i>Leuconostoc mesenteroides</i> , <i>Streptococcus bovis</i> ORLA-JENSEN)の培養液より、分離して得られたものである。成分はデキストランである。	グラム陽性細菌(<i>Leuconostoc mesenteroides</i> 又は <i>Streptococcus equinus</i> bovis ORLA-JENSEN)の培養液より、分離して得られたものである。成分はデキストランである。	増粘安定剤	Dextran	グラム陽性細菌(<i>Leuconostoc mesenteroides</i> 又は <i>Streptococcus equinus</i>)の培養液より、分離して得られたものである。成分はデキストランである。
212	鉄			⁵⁴ Fe, ⁵⁶ Fe, ⁵⁷ Fe, ⁵⁸ Fe		強化剤 製造用剤	Iron	
213	デュナリエラカロテン (デュナリエラ的全藻から得られた、β-カロテンを主成分とするものをいう。)	藻類カロチン 藻類カロテン デュナリエラカロチン ドナリエラカロチン ドナリエラカロチン抽出カロチン 抽出カロチン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロテン カロテン色素	オオヒゲマワリ科デュナリエラ(<i>Dunaliella bardawil</i> , <i>Dunaliella salina</i>)の全藻より、熱時油脂で、又は室温時～熱時ヘキサン若しくは加圧下二酸化炭素で抽出して得られたものである。主成分はカロチノイド(β-カロテン等)である。黄色を呈する。	オオヒゲマワリ科デュナリエラ(<i>Dunaliella bardawil</i>又は<i>Dunaliella salina</i>)の全藻からより、熱時油脂で、又は室温時～熱時ヘキサン若しくは加圧下二酸化炭素で抽出して得られた、ものである。主成分はカロチノイド(β-カロテンを主成分とするもの等)である。食用油脂を含むことがある黄色を呈する。	強化剤 着色料	<i>Dunaliella carotene</i>	デュナリエラ(<i>Dunaliella bardawil</i> 又は <i>Dunaliella salina</i>)の全藻から得られた、β-カロテンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
214	銅			⁶³ Cu, ⁶⁵ Cu		製造用剤	Copper	
215	トウガラシ色素 (トウガラシの果実から得られた、カプサンチン類を主成分とするものをいう。)	カプシカム色素 パプリカ色素	カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	ナス科トウガラシ(<i>Capsicum annuum</i> LINNE)の果実より、熱時油脂で抽出して得られたもの、室温時～微温時ヘキサン又はエチルアルコールで抽出して得られたもの、温時加圧下に二酸化炭素で抽出して得られたもの、又はこれらより、温時加圧下に二酸化炭素で辛味成分を除去したものである。主色素はカプサンチンの脂肪酸エステルである。橙色～赤色を呈する。	ナス科トウガラシ(<i>Capsicum annuum</i> Linne)の果実からより、熱時油脂で抽出して得られたもの、室温時～微温時ヘキサン又はエチルアルコールで抽出して得られたもの、温時加圧下に二酸化炭素で抽出して得られたもの、又はこれらより、温時加圧下に二酸化炭素で辛味成分を除去したものである。主色素はカプサンチン類の脂肪酸エステルを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある橙色～赤色を呈する。	着色料	Paprika colour Paprika oleoresin	トウガラシ(<i>Capsicum annuum</i> Linné)の果実から得られた、カプサンチン類を主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
216	トウガラシ水性抽出物 (トウガラシの果実から抽出して得られた、水溶性物質を主成分とするものをいう。)	ガプシカム水性抽出物 パプリカ水性抽出物	カプシカム抽出物 トウガラシ抽出物 パプリカ抽出物	ナス科トウガラシ(<i>Capsicum annuum</i> LINNE)の果実より、室温時含水エタノールで抽出したもので、タンパク質、ペプチド、ビタミンCを含む。		製造用剤	<i>Capsicum water-soluble extract</i>	
217	動物性ステロール (魚油又は「ラノリン」から得られた、コレステロールを主成分とするものをいう。)	コレステロール	ステロール	魚油の不けん化物又は「ラノリン」より、加水分解したもの、又は有機溶剤で抽出したものより得られたものである。主成分はコレステロールである。		乳化剤	Cholesterol	
218	トコトリエノール			イネ科イネ(<i>Oryza sativa</i> LINNE)の米ぬか油、ヤシ科アブラヤシ(<i>Elaeis guineensis</i> JACQ.)のパーム油等より、分離して得られたものである。成分はトコトリエノールである。	イネ科イネ(<i>Oryza sativa</i> Linne)の米ぬか油、ヤシ科アブラヤシ(<i>Elaeis guineensis</i> Jacquin)のパーム油等より、分別精製して得られたものである。主成分はトコトリエノールである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤	Tocotrienol	イネ(<i>Oryza sativa</i> Linné)の米ぬか油、アブラヤシ(<i>Elaeis guineensis</i> Jacquin)のパーム油等より分別精製して得られたものである。主成分はトコトリエノールである。食用油脂を含むことがある。

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
219	d-α-トコフェロール	α-ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール α-トコフェロール ビタミンE V.E	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール」より、分離して得られたものである。成分はd-α-トコフェロールである。	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧種子から得られた植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール（植物油脂から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。）より分離して得られた、ものである。成分はd-α-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤 強化剤	d-α-Tocopherol	油糧種子から得られた植物油脂又はミックストコフェロール（植物油脂から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。）より分離して得られた、d-α-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
220	d-γ-トコフェロール	γ-ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール γ-トコフェロール ビタミンE V.E	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール」より、分離して得られたものである。成分はd-γ-トコフェロールである。	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧種子から得られた植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール（植物油脂から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。）より分離して得られた、ものである。成分はd-γ-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤 強化剤	d-γ-Tocopherol	油糧種子から得られた植物油脂又はミックストコフェロール（植物油脂から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。）より分離して得られた、d-γ-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
221	d-δ-トコフェロール	δ-ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール δ-トコフェロール ビタミンE V.E	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール」より、分離して得られたものである。成分はd-δ-トコフェロールである。	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧種子から得られた植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール（植物油脂から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。）より分離して得られた、ものである。成分はd-δ-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤 強化剤	d-δ-Tocopherol	油糧種子から得られた植物油脂又はミックストコフェロール（植物油脂から得られたd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。）より分離して得られた、d-δ-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
222	トマト色素 (トマトの果実から得られた、リコピンを主成分とするものをいう。)	トマトリコピン	カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 野菜色素	ナス科トマト (<i>Lycopersicon esculentum</i> MILL.) の果実より、油脂で抽出したもの、果実を脱水し、室温時若しくは熱時、ヘキサン、酢酸エチル若しくはアセトンで抽出し、溶媒を留去したもの、又はトマトの果実の搾汁より分離して得られたものである。主色素はリコピンである。黄色～赤色を呈する。	ナス科トマト (<i>Lycopersicon esculentum</i> MillerHLL.) の果実からより、油脂で抽出したもの、果実を脱水し、室温時若しくは熱時、ヘキサン、酢酸エチル若しくはアセトンで抽出し、溶媒を留去したもの、又はトマトの果実の搾汁より分離して得られた、ものである。主色素はリコピンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある黄色～赤色を呈する。	着色料	Tomato colour Tomato lycopene	トマト (<i>Lycopersicon esculentum</i> Miller) の果実から得られた、リコピンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
223	トラガントガム (トラガントの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		トラガント	マメ科トラガント (<i>Astragalus gummifer</i> LABILL.) の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分は多糖類である。	マメ科トラガント (<i>Astragalus gummifer</i> LabillardiereABILL.) の分泌液からを、乾燥して得られた、ものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。	増粘安定剤	Tragacanth gum	トラガント (<i>Astragalus gummifer</i> Labillardière) の分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものである。
224	トランスグルコシダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus usami</i>)、細菌 (<i>Sulfolobus solfataricus</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Transglucosidase	
225	トランスグルタミナーゼ			動物の肝臓より、又は放線菌 (<i>Streptomyces</i> , <i>Streptoverticillium mobaraense</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、室温時水で抽出後、冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Transglutaminase	
226	トリプシン			動物のすい臓、若しくは魚類又は甲殻類の臓器より、室温時水又は酸性水溶液で抽出し、冷時～室温時エタノールで処理して得られたものである。	動物のすい臓又は、若しくは魚類若しくは又は甲殻類の臓器からより、室温時水又は酸性水溶液で抽出し、冷時～室温時エタノールで処理して得られた、たん白質分解酵素ものである。乳糖又はデキストリンを含むことがある。	酵素	Trypsin	動物のすい臓又は魚類若しくは甲殻類の臓器から得られた、たん白質分解酵素である。乳糖又はデキストリンを含むことがある。

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考 食品添加物公定書(第8版)
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			
227	トレハロース			担子菌 (<i>Agaricus</i> 等)、細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Brevibacterium</i> , <i>Pimelobacter</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Thermus</i> 等) 又は酵母 (<i>Saccharomyces</i> 等) の培養液又は菌体より、水若しくはアルコールで抽出して得られたもの、これを酵素によるでん粉の糖化液より分離して得られたもの、又はマルトースを酵素処理して得られたものである。成分はトレハロースである。		製造用剤	Trehalose	
228	トレハロースホスホリラーゼ			細菌 (<i>Plesiomonas</i>) の培養液の菌体を酵素 (リンチーム) 処理した後、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。		酵素	Trehalose phosphorylase	
229	トロロアオイ (トロロアオイの根から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			アオイ科トロロアオイ (<i>Abelmoschus manihot</i> MED.) の根を、乾燥、粉碎して得られたものである。主成分は多糖類である。		増粘安定剤	Tororoaoi	
230	納豆菌ガム (納豆菌の培養液から得られた、ポリグルタミン酸を主成分とするものをいう。)	納豆菌粘質物	ポリグルタミン酸	納豆菌 (<i>Bacillus subtilis</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分はポリグルタミン酸である。	納豆菌 (<i>Bacillus subtilis</i>) の培養液からより、分離して得られた、ものである。主成分はポリグルタミン酸を主成分とするものである。	増粘安定剤	Bacillus natto gum	納豆菌 (<i>Bacillus subtilis</i>) の培養液から得られた、ポリグルタミン酸を主成分とするものである。
231	ナフサ	石油ナフサ		石油蒸留物を、精製して得られたものである。成分はパラフィン系及びナフタレン系炭化水素である。		製造用剤	Petroleum naphtha	
232	生コーヒー豆抽出物 (コーヒーの種子から得られた、クロロゲン酸及びポリフェノールを主成分とするものをいう。)			アカネ科コーヒー (<i>Coffea arabica</i> LINNE) の種子より、温時アスコルビン酸又はクエン酸酸性水溶液で抽出して得られたものである。有効成分は、クロロゲン酸及びポリフェノールである。		酸化防止剤	Coffee bean extract	
233	ナリンジナーゼ	ナリンギナーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus usami</i> , <i>Penicillium decumbens</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Naringinase	
234	ナリンジン	ナリンギン		ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACF.) の果皮、果汁又は種子より、水又は室温時エタノール若しくはメタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はナリンジンである。	ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus × paradisi</i> MacfadyenACF-) の果皮、果汁又は種子より、水又は室温時エタノール若しくはメタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はナリンジンである。	苦味料等	Naringin	グレープフルーツ (<i>Citrus × paradisi</i> Macfadyen) の果皮、果汁又は種子より、水又はエタノール若しくはメタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はナリンジンである。
235	ニガグッタ (ニガグッタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ニガグッタ (<i>Ficus platyphylla</i> DELILE.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。		ガムベース	Niger gutta	
236	ニガヨモギ抽出物 (ニガヨモギの全草から得られた、セスキテルペンを主成分とするものをいう。)		ニガヨモギ	キク科ニガヨモギ (<i>Artemisia absinthium</i> LINNE) の全草より、水又は室温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセスキテルペン (アブシンチン等) である。		苦味料等	Absinth extract	
237	ニッケル			⁵⁸ Ni, ⁶⁰ Ni, ⁶¹ Ni, ⁶² Ni, ⁶⁴ Ni		製造用剤	Nickel	
238	ニンジンカロテン (ニンジンの根から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	キャロットカロチン キャロットカロテン ニンジンカロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロテノイド カロテノイド色素 カロテン カロテン色素	セリ科ニンジン (<i>Daucus carota</i> LINNE) の根の乾燥物より、熱時油脂で、又は室温時若しくは微温時へキササン、アセトン若しくは加圧下二酸化炭素で抽出して得られたものである。主成分はカロテノイド (カロテン等) である。黄色～橙色を呈する。	セリ科ニンジン (<i>Daucus carota</i> LinnéINNE) の根からの乾燥物より、熱時油脂で、又は室温時若しくは微温時へキササン、アセトン若しくは加圧下二酸化炭素で抽出して得られた、ものである。主成分はカロテノイド(カロテンを主成分とするもの等)である。食用油脂を含むことがある黄色～橙色を呈する。	強化剤 着色料	Carrot carotene	ニンジン (<i>Daucus carota</i> Linné) の根から得られた、カロテンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
239	ばい煎コメヌカ抽出物 (米ぬかから得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の米ぬかを脱脂し、ばい煎したもの、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去したものである。成分としてマルトールを含む。		製造用剤	Roasted rice bran extract	
240	ばい煎ダイズ抽出物 (ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を脱脂し、ばい煎したものより、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られたものである。成分としてマルトールを含む。		製造用剤	Roasted soybean extract	
241	パーオキシダーゼ	ペルオキシダーゼ		アブラナ科セイヨウワサビ (<i>Armoracia rusticana</i>)、アブラナ科ダイコン (<i>Rahpauns acanthiformis</i>) 若しくはキュウリ科キュウリ (<i>Cucumis sativus</i>) より搾汁したもの、又は糸状菌 (<i>Alternaria</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Coprinus cinereus</i> , <i>Oidiodendron</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、若しくは冷時～室温時濃縮後、エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Peroxidase	
242	白金			¹⁹² Pt, ¹⁹⁴ Pt, ¹⁹⁵ Pt, ¹⁹⁶ Pt, ¹⁹⁸ Pt		製造用剤	Platinum	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
243	パパイン			パパイヤ科パパイヤ (<i>Carica papaya</i> LINNE) の果実より、搾汁した後、乾燥したもの、又はこれより、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。	パパイヤ科 パパイヤ (<i>Carica papaya</i> Linné) の果実より、 搾汁した後、乾燥したもの、又はこれより、冷時～室温時水で抽出して得られた、たん白質分解酵素ものである。乳糖又はデキストリンを含むことがある。	酵素	Papain	パパイヤ (<i>Carica papaya</i> Linné) の果実より得られた、たん白質分解酵素である。乳糖又はデキストリンを含むことがある。
244	パーム油カロテン (アブラヤシの果実から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	パーム油カロテン 抽出カロテン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロテノイド カロテノイド色素 カロテン カロテン色素	ヤシ科アブラヤシ (<i>Elaeis guineensis</i> JACQ.) の果実から得られたパーム油より、室温時シリカゲルで吸着し、ヘキサンで分離して得られたもの、又はパーム油の不けん化物より、熱時含水メタノールで分別して得られたものである。主成分はカロテンである。黄色～橙色を呈する。	ヤシ科 アブラヤシ (<i>Elaeis guineensis</i> Jacquin) の果実から得られた、 パーム油より、室温時シリカゲルで吸着し、ヘキサンで分離して得られたもの、又はパーム油の不けん化物より、熱時含水メタノールで分別して得られたものである。主成分はカロテンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。黄色～橙色を呈する。	強化剤 着色料	Palm oil carotene	アブラヤシ (<i>Elaeis guineensis</i> Jacquin) の果実から得られた、カロテンを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
245	ペーライト		不溶性鉱物性物質	ガラス質鉱物より得られた鉱物性二酸化ケイ素を、800～1200℃で焼成し、多孔質として得られたものである。	ガラス質鉱物より得られた 鉱物性二酸化ケイ素を、 800～1,200℃で焼成し、多孔質として得られたものである。	製造用剤	Perlite	鉱物性二酸化ケイ素を800～1,200℃で焼成したものである。
246	パラジウム			¹⁰² Pd, ¹⁰⁴ Pd, ¹⁰⁵ Pd, ¹⁰⁶ Pd, ¹⁰⁸ Pd, ¹¹⁰ Pd		製造用剤	Palladium	¹⁰² Pd, ¹⁰⁴ Pd, ¹⁰⁵ Pd, ¹⁰⁶ Pd, ¹⁰⁸ Pd, ¹¹⁰ Pd
247	パラフィンワックス	パラフィン		原油を減圧蒸留して得られる潤滑油分画より、冷時プロパンで脱レキシ、脱ロウし、脱油したものより得られたもの、又は熱時エチルメチルケトンで処理し、溶剤を除去したものより得られたものでC ₂₀ ～C ₄₀ の炭化水素を含む。	原油を減圧蒸留して得られる潤滑油分画より、冷時プロパンで脱レキシ、脱ロウし、脱油したものより得られたもの、又は熱時エチルメチルケトンで処理し、溶剤を除去したものより得られたものでC₂₀～C₄₀の炭化水素を含む。 石油の常圧及び減圧蒸留出油から得た固形の炭化水素の混合物で、主として直鎖状の飽和炭化水素からなる。	ガムベース 光沢剤	Paraffin wax	石油の常圧及び減圧蒸留出油から得た固形の炭化水素の混合物で、主として直鎖状の飽和炭化水素からなる。
248	パンクレアチン			動物のすい臓より、室温時水で抽出し、冷時～室温時アセトンで処理して得られたものである。		酵素	Pancreatin	
249	ヒアルロン酸		ムコ多糖	鶏冠より、微温時～温時水、アルカリ性水溶液若しくは酸性水溶液で抽出し、エタノール若しくは含水エタノールで処理、若しくは酵素処理した後エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたもの、又は細菌 (<i>Streptococcus zooenidemicus</i>) の培養液を、冷時～温時、除菌し、エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたものである。成分はヒアルロン酸である。		製造用剤	Hyaluronic acid	
250	微結晶セルロース (パルプから得られた、結晶セルロースを主成分とするものをいう。)	結晶セルロース	セルロース	パルプを、鉱酸で加水分解し、非結晶領域を除いて得られたものである。主成分は結晶セルロースである。	パルプからを、 鉱酸で加水分解し、 非結晶領域を除いて 得られた、 ものである。主成分は結晶セルロースを 主成分とするものである。乾燥物及び含水物がある。	製造用剤	Microcrystalline cellulose	パルプから得られた、結晶セルロースを主成分とするものである。乾燥物及び含水物がある。
251	微小繊維状セルロース (パルプ又は綿を微小繊維状にして得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	パルプ又は綿を、均質化処理し、微小繊維状にして得られたものである。主成分はセルロースである。	パルプ又は綿を、 均質化処理し、 微小繊維状にして 得られた、 ものである。主成分はセルロースを 主成分とするものである。	増粘安定剤 製造用剤	Microfibrillated cellulose	パルプ又は綿を微小繊維状にして得られた、セルロースを主成分とするものである。
252	L-ヒスチジン		ヒスチジン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-ヒスチジンである。		調味料 強化剤	L-Histidine	定義なし
253	ビートルレッド (ビートの根から得られた、イソベタニン及びベタニンを主成分とするものをいう。)	アカビート色素	アカビート 野菜色素	アカザ科ビート (<i>Beta vulgaris</i> LINNE) の赤い根より、搾汁したもの、又は室温時～微温時水、酸性水溶液若しくは含水エタノールで抽出して得られたものである。主色素はベタニン及びイソベタニンである。赤色を呈する。	アカザ科 ビート (<i>Beta vulgaris</i> Linné) の赤い根からより、 搾汁したもの、又は室温時～微温時水、酸性水溶液若しくは含水エタノールで抽出して得られた、ものである。主色素はイソベタニン及びベタニン及びイソベタニンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある赤色を呈する。	着色料	Beet red	ビート (<i>Beta vulgaris</i> Linné) の根から得られた、イソベタニン及びベタニンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
254	L-ヒドロキシプロリン	L-オキシプロリン	オキシプロリン ヒドロキシプロリン	ゼラチン等を、加水分解し、分離して得られたものである。主成分はL-ヒドロキシプロリンである。		調味料 強化剤	L-Hydroxyproline	定義なし
255	ヒマワリ種子抽出物 (ヒマワリの種子から得られた、イソクロゲン酸及びクロゲン酸を主成分とするものをいう。)	ヒマワリエキス ヒマワリ種子エキス ヒマワリ抽出物	ヒマワリ種子	キク科ヒマワリ (<i>Helianthus annuus</i> LINNE) の種子又は種子の搾油相より、熱時水又は含水エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はイソクロゲン酸及びクロゲン酸である。		酸化防止剤	Sunflower seed extract	
256	ひる石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したひる石を、1000℃で焼成し、洗浄した後、乾燥して得られたものである。主成分はケイ酸塩である。		製造用剤	Vermiculite	
257	ファーセララン (フルセラリアの全藻から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			ススカケベニ科フルセラリア (<i>Furcellaria fastigiata</i> HUD.) の全藻より、熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。		増粘安定剤	Furcellaran	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
258	ファフィア色素 (ファフィアの培養液から得られた、 アスタキサンチンを主成分とするもの をいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	酵母 (<i>Phaffia rhodozyma</i> MILLER) の培養液より、室 温時アセトン、エタノール、含水エタノール、ヘキサ ン又はこれらの混合液で抽出し、溶媒を除去して得ら れたものである。主色素はアスタキサンチンである。 橙色～赤色を呈する。		着色料	Phaffia colour	
259	フィシン	ファイシン		クワ科イチジク (<i>Ficus carica</i> LINNE) 又はクワ科ヒ ゴ (<i>Ficus glabrata</i> H.B. et K.) の樹液を、乾燥し たもの、又はこれより、冷時～室温時水で抽出して得 られたものである。成分はフィシンである。		酵素	Ficin	
260	フィターゼ		ホスホヒドロラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i>) の培養液より水で抽出 し、濃縮して得られたものである。		酵素	Phytase	
261	フィチン酸 (米ぬか又はトウモロコシの種子から 得られた、イノシトールヘキサリン酸 を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られ た米ぬか又はイネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子より、室温時水又は酸性水溶液で抽出し、精製 して得られたものである。主成分はイノシトールヘキ サリン酸である。		酸味料 製造用剤	Phytic acid	
262	フィチン (抽出物) (米ぬか又はトウモロコシの種子から 得られた、イノシトールヘキサリン酸 マグネシウムを主成分とするものをい う。)		フィチン	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られ た米ぬか又はイネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子より、室温時水で抽出して得られたものではな い。主成分はイノシトールヘキサリン酸マグネシウム である。		製造用剤	Phytin (extract)	
263	フェリチン		鉄たん白 鉄たん白質	ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE) の脾臓より、熱時水 で抽出し、塩析法で分画し、膜ろ過により得られたも のである。成分はフェリチンである。		強化剤	Ferritin	
264	フェルラ酸			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の糠より得られた 米糠油を、室温時弱アルカル性下で含水エタノール及 びヘキサンで分配した後、含水エタノール画分に得ら れたγ-オリザノールを、加圧下熱時硫酸で加水分解 し、精製して得られたもの、又は細菌 (<i>Pseudomonas</i>) を、フトモモ科チョウジノキ (<i>Syzygium aromaticum</i> MERRILL et PERRY) のつぼみ 及び葉より水蒸気蒸留で得られた丁子油、又は丁子油 から精製して得られたオイゲノールを含む培養液で培 養し、その培養液を、分離、精製して得られたもので ある。成分はフェルラ酸である。		酸化防止剤	Ferulic acid	
265	フクロノリ抽出物 (フクロノリの全藻から得られた、多 糖類を主成分とするものをいう。)	フクロノリ多糖類 フクロノリ多糖類 フクロノリ抽出物		フノリ科フクロノリ (<i>Gloiopeltis furcata</i> POSTEL et RUPR) の全藻より、熱時水で抽出して得られたも のである。主成分は多糖類である。	フノリ科フクロノリ (<i>Gloiopeltis furcata</i> J. Agardh POSTEL et RUPR) の全藻からより、熱時水で 抽出して得られた、ものである。主成分は多糖類を主 成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デ キストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤	Fukuronori extract	フクロノリ (<i>Gloiopeltis furcata</i> J. Agardh) の全 藻から得られた、多糖類を主成分とするものである。 ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルト ースを含むことがある。
266	ブタン			石油若しくは天然ガス成分中、n-ブタンの沸点付近の 留分である。		製造用剤	Butane	
267	ブドウ果皮色素 (アメリカブドウ又はブドウの果皮か ら得られた、アントシアニンを主成分 とするものをいう。)	エノシアン	アントシアニン アントシアニン色素 ブドウ色素	ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又 はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) の果皮よ り、室温時水で抽出して得られたものである。主色素 はアントシアニン (マルビジン-3-グルコシド等) で ある。赤色～赤紫色を呈する。	ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> Linné LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> Linné LINNE) の果皮からより、室温時水で抽出して得られ た、ものである。主色素はアントシアニン (マルビジ ン-3-グルコシド等) を主成分とするものである。デ キストリン又は乳糖を含むことがある赤色～赤紫色を 呈する。	着色料	Grape skin colour Grape skin extract	アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> Linné) 又はブドウ (<i>Vitis vinifera</i> Linné) の果皮から得られた、アント シアニンを主成分とするものである。デキストリン 又は乳糖を含むことがある。
268	ブドウ果皮抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの果皮か ら得られた、ポリフェノールを主成分 とするものをいう。)			ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又 はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) のうち、 生食用又は醸造用ブドウの甲州、シャルドネ若しくは リースリング種の果皮搾粕より、室温時～微温時エタ ノールで抽出して得られたものである。主成分はポリ フェノールである。		製造用剤	Grape skin-derived substance	
269	ブドウ種子抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの種子か ら得られた、プロアントシアニンを 主成分とするものをいう。)		プロアントシアニン	ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又 はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) の種子よ り、熱時水、温時エタノール若しくは室温時アセトン で抽出したものより得られたもの、又はこの抽出物 を、酵母を用いて発酵処理したものより得られたも の、若しくはタンナーゼにより加水分解処理したもの より得られたものである。主成分はプロアントシアニ ンである。		酸化防止剤 製造用剤	Grape seed extract	
270	ブラジルカンゾウ抽出物 (ブラジルカンゾウの根から得られ た、ペリアンドリンを主成分とするも のをいう。)	ペリアンドリン	ブラジルカンゾウ	マメ科ブラジルカンゾウ (<i>Periandra dulcis</i> MART.) の根より、水で抽出したものより得られたものではな い。甘味成分はペリアンドリンである。		甘味料	Brazilian licorice extract	

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
271	フルクトシルトランスフェラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i> , <i>Penicillium roqueforti</i>) 又は細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は除菌後、冷時～室温時濃縮して得られたものである。		酵素	Fructosyl transferase	
272	プルラナーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Klebsiella</i> , <i>Sulfolobus solfataricus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもので、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。		酵素	Pullulanase	
273	プルラン			黒酵母 (<i>Aureobasidium pullulans</i> (DE BARY) ARN.) の培養液より、分離して得られた多糖類である。成分はプルランである。	糸状菌黒酵母 (<i>Aureobasidium pullulans</i> (DE BARY) ARN.) の培養液より、分離して得られた多糖類である。成分はプルランである。	増粘安定剤 製造用剤	Pullulan	糸状菌 (<i>Aureobasidium pullulans</i>) の培養液より、分離して得られた多糖類である。成分はプルランである。
274	プロテアーゼ	たん白分解酵素		動物、魚類若しくは甲殻類の筋肉若しくは臓器より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus melleus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus saitoi</i> , <i>Aspergillus sojae</i> , <i>Monascus pilosus</i> , <i>Monascus purpureus</i> , <i>Mucor circinelloides</i> , <i>Mucor javanicus</i> , <i>Mucor miehei</i> , <i>Mucor rouxii</i> , <i>Penicillium citrinum</i> , <i>Penicillium duponti</i> , <i>Rhizomucor miehei</i> , <i>Rhizopus chinensis</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus niveus</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、担子菌 (<i>Pycnoporus coccineus</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>)、細菌 (<i>Bacillus amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus coagulans</i> J4, <i>Bacillus lentus</i> , <i>Bacillus licheniformis</i> , <i>Bacillus polymixa</i> , <i>Bacillus stearothermophilus</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Bacillus thermoproteolyticus</i> , <i>Pseudomonas paucimobilis</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時～室温時樹脂精製して得られたもの、若しくはこれより、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの若しくは硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。		酵素	Protease	
275	プロパン			石油若しくは天然ガス成分中、n-プロパンの沸点付近の留分である。		製造用剤	Propane	
276	プロポリス抽出物 (ミツバチの巣から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)			ミツバチ科ミツバチ (<i>Apis mellifera</i> LINNE, <i>Apis indica</i> RODOSZKOWSKI) の巣より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。		酸化防止剤	Propolis extract	
277	ブロメライン	ブロメリン		パイナップル (<i>Ananas comosus</i> MERRILL) の果実若しくは根茎より、搾汁した後、乾燥したもの、又はこれより、室温時水で抽出し、冷時～室温時エタノール若しくはアセトンで処理して得られたものである。	パイナップル (<i>Ananas comosus</i> Merrill) の果実又は若しくは根茎より、搾汁した後、乾燥したもの、又はこれより、室温時水で抽出し、冷時～室温時エタノール若しくはアセトンで処理して得られた、たん白質分解酵素ものである。乳糖又はデキストリンを含むことがある。	酵素	Bromelain	パイナップル (<i>Ananas comosus</i> Merrill) の果実又は根茎より得られた、たん白質分解酵素である。乳糖又はデキストリンを含むことがある。
278	L-プロリン		プロリン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-プロリンである。		調味料 強化剤	L-Proline	定義なし
279	分別レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、スフィンゴミエリン、フォスファチジルイノシトール、フォスファチジルエタノールアミン及びフォスファチジルコリンを主成分とするものをいう。)	レシチン分別物 レシチン		「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」より、室温時～室温時メタノール、エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出して得られたものである。主成分は、フォスファチジルコリン、フォスファチジルエタノールアミン、フォスファチジルイノシトール、スフィンゴミエリンである。		乳化剤	Fractionated lecithin Cephalin Lipoinositol	
280	粉末セルロース (パルプを分解して得られた、セルロースを主成分とするものをいう。ただし、「微結晶セルロース」を除く。)		セルロース	パルプ繊維を、加水分解したもの、又は短繊維を、分解して得られたセルロースである。	パルプ繊維を、加水分解したもの、又は短繊維を、分解して得られた、セルロースを主成分とするものである。	製造用剤	Powdered cellulose	パルプを分解して得られた、セルロースを主成分とするものである。
281	粉末モミガラ (イネのもみ殻から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) のもみ殻を、微粉砕して得られたものである。主成分はセルロースである。		ガムベース	Powdered rice hulls	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
282	ペカンナッツ色素 (ピーカンの果皮又は渋皮から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)	ピーカンナッツ色素	フラボノイド フラボノイド色素	クルミ科ピーカン (<i>Carya pecan</i> ENGL. et GRAEBN.) の果皮又は渋皮より、熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの又は熱時酸性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。褐色を呈する。		着色料	Pecan nut colour	
283	ヘキサン			石油成分中、n-ヘキサンの沸点付近の留分である。	石油成分中、n-ヘキサンの沸点付近の留分である。主としてn-ヘキサン (C ₆ H ₁₄) を含む。	製造用剤	Hexane	主としてn-ヘキサン (C ₆ H ₁₄) を含む。
284	ペクチナーゼ		カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus alliaceus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus japonicus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus pulverulentus</i> , <i>Aspergillus usamii</i> , <i>Rhizopus oryzae</i> , <i>Trichoderma</i>)、細菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、担子菌 (<i>Corticium</i>) 若しくは酵母 (<i>Trichosporon</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Pectinase	
285	ペクチン			アカザ科サトウダイコン (<i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>rapa</i> DUMORTIER)、キク科ヒマワリ (<i>Helianthus annuus</i> LINNE)、ミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK)、ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACF.)、ミカン科ライム (<i>Citrus aurantifolia</i> SWINGLE)、ミカン科レモン (<i>Citrus limon</i> BURM. f.) 又はバラ科リンゴ (<i>Malus pumila</i> MILLER) より、熱時水又は酸性水溶液で抽出したものより得られたもの又はこれをアルカリ性水溶液若しくは酵素で分解したものより得られたものである。成分はメチル化ポリガラクトuron酸等の多糖類である。	アカザ科サトウダイコン (<i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>rapa</i> DUMORTIER)、キク科ヒマワリ (<i>Helianthus annuus</i> LINNE)、ミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK)、ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACF.)、ミカン科ライム (<i>Citrus aurantifolia</i> SWINGLE)、ミカン科レモン (<i>Citrus limon</i> BURM. f.) 又はバラ科リンゴ (<i>Malus pumila</i> MILLER) より、熱時水又は酸性水溶液で抽出したものより得られたもの又はこれをアルカリ性水溶液若しくは酵素で分解したものより得られたものである。成分はかんきつ類、リンゴ等から得られた、部分的にメチルエステル化されたポリガラクトuron酸などの水溶性多糖類を成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖又はデキストリンを含むことがある。	増粘安定剤	Pectin	かんきつ類、リンゴ等から得られた、部分的にメチルエステル化されたポリガラクトuron酸などの水溶性多糖類を成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖又はデキストリンを含むことがある。
286	ペクチン分解物 (「ペクチン」から得られた、ガラクトuron酸を主成分とするものをいう。)		分解ペクチン	「ペクチン」を、酵素で分解して得られたものである。主成分はガラクトuron酸である。		保存料	Pectin digests	
287	ヘゴ・イチョウ抽出物 (イチョウ及びヘゴの葉から抽出して得られたものをいう。)			ヘゴ科ヘゴ (<i>Cyathea fauriei</i> COPEL.) 及びイチョウ科イチョウ (<i>Ginkgo biloba</i> LINNE) の葉を9:1の比率で混合し、熱時水で抽出して得られたものである。		酸化防止剤	Hego-Ginkgo leaf extract	
288	ヘスペリジナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i> , <i>Penicillium decumbens</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Hesperidinase	
289	ヘスペリジン	ビタミンP		柑橘類の果皮、果汁又は種子より、室温時アルカリ性水溶液で抽出して得られたものである。成分はヘスペリジンである。		強化剤	Hesperidin Vitamin P	
290	ベタイン			アカザ科サトウダイコン (<i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>rapa</i> DUMORTIER) の糖蜜より、分離して得られたものである。成分はベタインである。	アカザ科サトウダイコンテンサイ (<i>Beta vulgaris</i> Linné var. <i>rapa</i> DUMORTIER) の糖蜜より、分離して得られたものである。成分はベタインである。	調味料	Betaine	テンサイ (<i>Beta vulgaris</i> Linné) の糖蜜より、分離して得られたものである。成分はベタインである。
291	ベニコウジ黄色素 (ベニコウジカビの培養液から得られた、キサントモナシン類を主成分とするものをいう。)	モナスカス黄色素	紅麹 紅麹色素 モナスカス モナスカス色素	子のう菌類ベニコウジカビ (<i>Monascus purpureus</i> WENT.) の培養液を乾燥し、粉碎したものより、微温時弱塩酸性エタノールで抽出し、中和して得られたものである。主色素はキサントモナシン類である。黄色を呈する。		着色料	Monascus yellow	
292	ベニコウジ色素 (ベニコウジカビの培養液から得られた、アンカフラビン及びモナスコルブリンを主成分とするものをいう。)	モナスカス色素	紅麹 モナスカス	子のう菌類ベニコウジカビ (<i>Monascus pilosus</i> K. SATO ex D. HAWKSWORTH et PITT, <i>Monascus purpureus</i> WENT.) の菌体より、室温時～微温時含水エタノール又は含水プロピレングリコールで抽出して得られたものである。主色素はモナスコルブリン及びアンカフラビン等である。赤色を呈する。	子のう菌類ベニコウジカビ (<i>Monascus pilosus</i> 又は <i>K. SATO ex D. HAWKSWORTH et PITT</i> , <i>Monascus purpureus</i> WENT.) の培養液から菌体より、室温時～微温時含水エタノール又は含水プロピレングリコールで抽出して得られた、アンカフラビン類及びものである。主色素はモナスコルブリン類を主成分とするもの及びアンカフラビン類等である。赤色を呈する。	着色料	Monascus colour	ベニコウジカビ (<i>Monascus pilosus</i> 又は <i>Monascus purpureus</i>) の培養液から得られた、アンカフラビン類及びモナスコルブリン類を主成分とするものである。

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
293	ベニバナ赤色素 (ベニバナの花から得られた、カルタミンを主成分とするものをいう。)	カーサマス赤色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花赤 紅花色素	キク科ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> LINNE) の花又はこれを発酵若しくは酵素処理したものより、黄色素を除去した後、室温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はカルタミンである。赤色を呈する。	キク科ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> Linne) の花から又はこれを発酵若しくは酵素処理したものより、黄色素を除去した後、室温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られた、ものである。主色素はカルタミンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある赤色を呈する。	着色料	Carthamus red	ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> Linne) の花から得られた、カルタミンを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
294	ベニバナ黄色素 (ベニバナの花から得られた、サフライエロー類を主成分とするものをいう。)	カーサマス黄色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花黄 紅花色素	キク科ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> LINNE) の花より、室温時～微温時水で抽出して得られたものである。主色素はサフライエロー (サフロミン) 類である。黄色を呈する。	キク科ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> Linne) の花からより、室温時～微温時水で抽出して得られた、ものである。主色素はサフライエロー (サフロミン) 類を主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある黄色を呈する。	着色料	Carthamus yellow	ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> Linne) の花から得られた、サフライエロー類を主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
295	ベネズエラチクル (ベネズエラチクルの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリソプレンを主成分とするものをいう。)	カプーレ		アカテツ科ベネズエラチクル (<i>Manilkara williamsii</i> STANDL.) の幹枝より得られるラテックスを、脱水したものより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリソブレンである。		ガムベース	Venezuelan chicle	
296	ペプシン			動物胃粘膜又は魚類より、室温時酸性水溶液で抽出し、冷時～微温時エタノール又はアセトンで処理して得られたものである。	動物胃粘膜又は魚類からより、室温時酸性水溶液で抽出し、冷時～微温時エタノール又はアセトンで処理して得られた、たん白質分解酵素ものである。乳糖又はデキストリンを含むことがある。	酵素	Pepsin	動物又は魚類から得られた、たん白質分解酵素である。乳糖又はデキストリンを含むことがある。
297	ヘプタン			石油成分中、n-ヘプタンの沸点付近の留分である。		製造用剤	Heptane	
298	ペプチダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus sojae</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Lactococcus lactis</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、若しくはこれより、冷時エタノールで処理して得られたもの、又は培養液を固液分離、濃縮、ろ過して得られたものである。		酵素	Peptidase	
299	ヘマトコッカス藻色素 (ヘマトコッカスの全藻から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	コナヒゲムシ科ヘマトコッカス (<i>Haematococcus</i> C. A. AGARCH) の全藻を、乾燥後、粉碎したもの、又はこれを、二酸化炭素で抽出したもの、若しくは室温時含水エタノール、エタノール、アセトン、ヘキサン若しくはこれらを2種以上混合したもので抽出し、溶媒を除去したものである。主色素はアスタキサンチンの脂肪酸エステルである。橙色～赤色を呈する。	コナヒゲムシ科ヘマトコッカス (<i>Haematococcus</i> spp. C. A. AGARCH) の全藻から得られた、を、乾燥後、粉碎したもの、又はこれを、二酸化炭素で抽出したもの、若しくは室温時含水エタノール、エタノール、アセトン、ヘキサン若しくはこれらを2種以上混合したもので抽出し、溶媒を除去したものである。主色素はアスタキサンチン類を主成分とするものの脂肪酸エステルである。食用油脂を含むことがある橙色～赤色を呈する。	着色料	Haematococcus algae colour	ヘマトコッカス (<i>Haematococcus</i> spp.) の全藻から得られた、アスタキサンチン類を主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
300	ヘミセルラーゼ	ペントサナーゼ	カルボヒドラーゼ	枯草菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus usamii</i> , <i>Humicola insolens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma viride</i>) 若しくは担子菌 (<i>Corticium</i> , <i>Pycnoporus coccineus</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたもの、又は培養液を固液分離、濃縮、ろ過して得られたものである。		酵素	Hemicellulase	
301	ヘム鉄			ヘモグロビンをタンパク分解酵素で処理したものより、分離して得られたものである。主成分はヘム鉄である。		強化剤	Heme iron	ヘモグロビンをタンパク分解酵素で処理したものより、分離して得られたものである。主成分はヘム鉄である。
302	ヘリウム			² He		製造用剤	Helium	
303	ペントナイト		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘して得られたペントナイトを乾燥して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。		製造用剤	Bentonite	鉱床より採掘して得られたペントナイトを乾燥して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。
304	ホスホジエステラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Penicillium citrinum</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Phosphodiesterase	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
305	ホスホリパーゼ	ホスファチダーゼ レシチナーゼ		動物のすい臓若しくはアブラナ科キャベツ (<i>Brassica oleracea</i> LINNE) より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus niger</i>)、担子菌 (<i>Corticium</i>)、放線菌 (<i>Actinomadura</i> , <i>Nocardioopsis</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又はこれより含水エタノール若しくは含水アセトンで処理して得られたもの、樹脂精製後、アルカリ性水溶液で処理したものである。		酵素	Phospholipase	
306	没食子酸			ウルシ科ヌルデ (<i>Rhus javanica</i> LINNE) に発生する五倍子、ブナ科 (<i>Quercus infectoria</i> OIIV.) に発生する没食子より、水、エタノール又は有機溶剤で抽出したタンニン、又はマメ科タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> (MOLINA) KUNTZE) の実の夾より、温時水で抽出したタンニンを、アルカリ又は酵素 (タンナーゼ) により加水分解して得られたものである。成分は没食子酸である。		酸化防止剤	Gallic acid	
307	ホホバロウ (ホホバの果実から得られた、イコセン酸イコセニルを主成分とするものをいう。)	ホホバワックス		ツゲ科ホホバ (<i>Simmondsia californica</i> NUTT.) の果実より採油したホホバ脂より、分離して得られた高融点ロウ物質である。主成分はイコセン酸イコセニルである。		ガムベース	Jojoba wax	
308	ポリフェノールオキシダーゼ	フェノラーゼ		糸状菌 (<i>Alternaria</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Coriolus</i>) 若しくは担子菌 (<i>Cyathus</i> , <i>Polyporus cinereus</i> , <i>Polyporus coccineus</i> , <i>Polyporus versicolor</i> , <i>Trametes</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、除菌後、冷時含水エタノールで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。		酵素	Polyphenol oxidase	
309	ε-ポリリシン	ε-ポリリジン	ポリリジン	放線菌 (<i>Streptomyces albus</i>) の培養液より、イオン交換樹脂を用いて吸着、分離して得られたものである。成分はε-ポリリシンである。	放線菌 (<i>Streptomyces albus</i>) の培養液より、イオン交換樹脂を用いて吸着、分離して得られたものである。成分はε-ポリリシンである。デキストリンを含むことがある。	保存料	ε-Polylysine	放線菌 (<i>Streptomyces albus</i>) の培養液より、イオン交換樹脂を用いて吸着、分離して得られたものである。成分はε-ポリリシンである。デキストリンを含むことがある。
310	マイクロクリスタリンワックス	マイクロクリスタリンワックス		原油の減圧蒸留残渣油を、冷時プロパンで脱レキし、脱ロウし、脱油し、分離して得られたもの、又は熱時フルフラールで処理後、フルフラールを除去したもので得られたものである。成分としてC ₃₀ ～C ₆₀ の分岐炭化水素を含む。	原油の減圧蒸留の残渣油又は重質留出油からを、冷時プロパンで脱レキし、脱ロウし、脱油し、分離して得られたもの、又は熱時フルフラールで処理後、フルフラールを除去したもので得られた固形の炭化水素の混合物で、主として分枝状及び直鎖状の飽和炭化水素からなるものである。成分としてC ₃₀ ～C ₆₀ の分岐炭化水素を含む。	ガムベース 光沢剤	Microcrystalline wax	石油の減圧蒸留の残渣油又は重質留出油から得られた固形の炭化水素の混合物で、主として分枝状及び直鎖状の飽和炭化水素からなる。
311	マクロホモプシスガム (マクロホモプシスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	マクロホモプシス多糖類		不完全菌類 (<i>Macrophomopsis</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	マクロホモプシス属菌不完全菌類 (<i>Macrophomopsis (Fisicocum)</i>) の培養液からより、分離して得られた、ものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤	Macrophomopsis gum	マクロホモプシス属菌 (<i>Macrophomopsis (Fisicocum)</i>) の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。
312	マスチック (ヨウニウコウの分泌液から得られた、マスチカジエノン酸を主成分とするものをいう。)			ウルシ科ヨウニウコウ (<i>Pistacia lentiscus</i> LINNE) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、熱時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。主構成成分はマスチカジエノン酸である。		ガムベース	Mastic gum	
313	マッサランドバチョコレート (マッサランドバチョコレートの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドバチョコレート (<i>Manilkara solimoensis</i> GILLY.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。		ガムベース	Massaranduba chocolate	
314	マッサランドババラタ (マッサランドババラタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドババラタ (<i>Manilkara huberi</i> (DUCKE) CHEVAL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。		ガムベース	Massaranduba balata	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
315	マリーゴールド色素 (マリーゴールドの花から得られた、キサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 マリーゴールド	キク科マリーゴールド (<i>Tagetes erecta</i> WILLD.) の花より、室温時へキサソで抽出して得られたものである。主色素はルテインの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。	キク科マリーゴールド (<i>Tagetes patula</i> Linné若しくは <i>Tagetes erecta</i> Linné又はそれらの種間雑種 WILLD.) の花からより、室温時へキサソで抽出して得られた、キサントフィルを主成分とするものである。主色素はルテインの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。	着色料	Marigold colour	マリーゴールド (<i>Tagetes patula</i> Linné若しくは <i>Tagetes erecta</i> Linné又はそれらの種間雑種) の花から得られた、キサントフィルを主成分とするものである。
316	マルトースホスホリラーゼ			細菌 (<i>Plesiomonas</i>) の培養液の菌体を酵素 (リゾチーム) 処理した後、冷時～室温時水で抽出して得られたものである		酵素	Maltose phosphorylase	
317	マルトトリオヒドロラーゼ	G3生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Penicillium</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus subtilis</i> , <i>Microbacterium</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌した後、濃縮して得られたものである。		酵素	Maltotriohydrolase	
318	未焼成カルシウム (貝殻、真珠の真珠層、造礁サンゴ、骨又は卵殻を乾燥して得られた、カルシウム塩を主成分とするものをいう。)		未焼成Ca			強化剤	Non-calcinated calcium	
	貝殻未焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	貝殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。			Non-calcinated shell calcium	
	骨未焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca	獣骨又は魚骨を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分はリン酸カルシウムである。			Non-calcinated bone calcium	
	サンゴ未焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	イシサンゴ目 (<i>Scleractinia</i>) の造礁サンゴを、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。			Non-calcinated coral calcium	
	真珠層未焼成カルシウム		真珠層カルシウム 真珠層Ca	ウグイスガイ科アコヤガイ (<i>Pinctada fucata</i>) から得られる真珠の核を除いた真珠層を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。			Non-calcinated mother-of-pearl layer calcium	
	卵殻未焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	卵殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。			Non-calcinated eggshell calcium	
319	ミックストコフェロール (植物性油脂から得られた、d- α -トコフェロール、d- β -トコフェロール、d- γ -トコフェロール及びd- δ -トコフェロールを主成分とするものをいう。)	ミックスピタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール ビタミンE V.E ミックスV.E	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂より、メタノール、アセトン、ヘキサソ、プロパノール、ヘプタン又はエタノールで分離して得られたものである。主成分はd- α -、d- β -、d- γ -、d- δ -トコフェロールである。	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂からより、メタノール、アセトン、ヘキサソ、プロパノール、ヘプタン又はエタノールで分離して得られた、ものである。主成分はd-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。	酸化防止剤 強化剤	Mixed tocopherols	植物性油脂から得られた、d- α -トコフェロール、d- β -トコフェロール、d- γ -トコフェロール及びd- δ -トコフェロールを主成分とするものである。食用油脂を含むことがある。
320	ミツロウ (ミツバチの巣から得られた、パルミチン酸ミリシルを主成分とするものをいう。)	オウロウ ビースワックス ベースワックス		ミツバチ科ミツバチ (<i>Apis indica</i> RADOSZKO., <i>Apis mellifera</i> LINNE) の巣より、加熱圧搾後、ろ過したものより得られたものである。主成分はパルミチン酸ミリシルである。	ミツバチ科ミツバチ (<i>Apis</i> spp. <i>indica</i> RADOSZKO., <i>Apis mellifera</i> LINNE) の巣からより、加熱圧搾後、ろ過したものより得られた、ものである。主成分はパルミチン酸ミリシルを主成分とするものである。	ガムベース 光沢剤	Bees wax	ミツバチ (<i>Apis</i> spp.) の巣から得られた、パルミチン酸ミリシルを主成分とするものである。
321	ミルラ (ボツヤクの分泌液から抽出して得られたものをいう。)	ミル		カンラン科ボツヤク (<i>Commiphora mukul</i> ENGL.) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、室温時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。成分としてコミホールを含む。		ガムベース	Myrrh	
322	ムラサキイモ色素 (サツマイモの塊根から得られた、シアニジンアシルグルコシド及びペオニジンアシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	ヒルガオ科サツマイモ (<i>Ipomoea batatas</i> POIR.) の紫色の塊根より、乾燥、粉碎して得られたもの、又は室温時水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジンアシルグルコシド及びペオニジンアシルグルコシドである。紫赤色を呈する。	ヒルガオ科サツマイモ (<i>Ipomoea batatas</i> Poiret(PIR.)) の紫色の塊根からより、乾燥、粉碎して得られたもの、又は室温時水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られた、ものである。主色素はシアニジンアシルグルコシド及びペオニジンアシルグルコシドを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある紫赤色を呈する。	着色料	Purple sweet potato colour	サツマイモ (<i>Ipomoea batatas</i> Poiret) の塊根から得られた、シアニジンアシルグルコシド及びペオニジンアシルグルコシドを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
323	ムラサキトウモロコシ色素 (トウモロコシの種子から得られた、シアニジン-3-グルコシドを主成分とするものをいう。)	ムラサキコーン色素	アントシアニン アントシアニン色素	イネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の紫色の種子より、温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジン-3-グルコシド等である。赤色～紫赤色を呈する。	イネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> Linné(LINNE)) の紫色の種子からより、温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られた、ものである。主色素はシアニジン-3-グルコシドを主成分とするもの等である。デキストリン又は乳糖を含むことがある赤色～紫赤色を呈する。	着色料	Purple corn colour	トウモロコシ (<i>Zea mays</i> Linné) の種子から得られた、シアニジン-3-グルコシドを主成分とするものである。デキストリン又は乳糖を含むことがある。
324	ムラサキヤマイモ色素 (ヤマイモの塊根から得られた、シアニジンアシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 ムラサキヤマイモ野菜色素	ヤマノイモ科ヤマイモ (<i>Dioscorea alata</i> LINNE) の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジンアシルグルコシドである。紫赤色を呈する。		着色料	Purple yam colour	
325	ムラミダーゼ			放線菌 (<i>Actinomycetes</i> , <i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌後、冷時～室温時濃縮し、冷時含水エタノールで抽出して得られたものである。		酵素	Muramidase	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
326	メナキノン(抽出物) (アルトロバクターの培養液から得られた、メナキノン-4を主成分とするものをいう。)	ビタミンK ₂ (抽出物)	ビタミンK ₂ ビタミンK V.K ₂ V.K メナキノン	細菌(<i>Arthrobacter nicotianae</i>)の培養液より、室温時ブタノールで抽出後、室温時へキササンで抽出し、精製して得られたものである。主成分はメナキノン-4である。	細アルトロバクター属菌(<i>Arthrobacter nicotianae</i>)の培養液からより、室温時ブタノールで抽出後、室温時へキササンで抽出し、精製して得られた、ものである。主成分はメナキノン-4を主成分とするものである。	強化剤	Menaquinone (extract) Vitamin K ₂ (extract)	アルトロバクター属菌(<i>Arthrobacter nicotianae</i>)の培養液から得られた、メナキノン-4を主成分とするものである。
327	メバロン酸			酵母(<i>Saccharomyces fibuligera</i>)によるコーンステープリカー又はカゼイン由来のペプトンを主原料とする発酵培養液より、有機溶剤で抽出して得られたものである。成分はメバロン酸である。		製造用剤	Mevalonic acid	
328	メラロイカ精油 (メラロイカの葉から得られた、精油を主成分とするものをいう。)			フトモモ科メラロイカ(<i>Melaleuca alternifolia</i> CHEEL)の葉より、水蒸気蒸留により得られたものである。成分は精油(β-テルピネン及びγ-テルピネン等)である。		酸化防止剤	Melaleuca oil	
329	モウソウチク乾留物 (モウソウチクの茎を乾留して得られたものをいう。)		竹乾留物	イネ科モウソウチク(<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.)の茎をチップ状にしたものを、減圧加熱下で乾留したものであり得られたものである。		製造用剤	Mousouchiku dry distillate	
330	モウソウチク抽出物 (モウソウチクの茎の表皮から得られた、2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを主成分とするものをいう。)			イネ科モウソウチク(<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.)の茎の表皮を、粉碎したもので、微温時エタノールで抽出して得られたものである。成分として2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを含む。		製造用剤	Mousouchiku extract	
331	木材チップ (ハシバミ又はブナの幹枝を粉碎して得られたものをいう。)	シュペーネ		カバノキ科ハシバミ(<i>Corvulus heterophylla</i> FISCHER var. <i>thunbergii</i> BLUME)又はブナ科ブナ(<i>Fagus crenata</i> BLUME)の幹枝を熱水殺菌したものを、粉碎して得られたものである。		製造用剤	Wood chip	
332	木炭 (竹材又は木材を炭化して得られたものをいう。)			イネ科マダケ(<i>Phyllostachys bambusoides</i> SIEB. et ZUCC.)若しくはイネ科モウソウチク(<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.)の茎又はカバノキ科シラカバ(<i>Betula platyphylla</i> SUKAT. var. <i>japonica</i> HARA)、チョウセンマツ(<i>Pinus koraiensis</i> SIEB. et ZUCC.)、ブナ科ウバメガシ(<i>Quercus phylliraeoides</i>)等の幹枝又は種子を、炭化して得られたものである。		製造用剤	Charcoal	
333	モクロウ (ハゼノキの果実から得られた、グリセリンバルミタートを主成分とするものをいう。)	日本ロウハゼ脂	植物ワックス	キクウルシ科ハゼノキ(<i>Rhus succedanea</i> LINNE)の果実より、融解、さらしたもので得られたものである。主成分はグリセリンバルミタートである。		カムベース	Japan wax	
334	木灰 (竹材又は木材を灰化して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ(<i>Fagus crenata</i> BLUME)等の幹枝を、灰化して得られたものである。		製造用剤	Timber ash	
335	木灰抽出物 (「木灰」から抽出して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ(<i>Fagus crenata</i> BLUME)、クスノキ科クスノキ(<i>Cinnamomum Camphora</i> SIEB.)等の幹枝を灰化して得られた灰化物を、精製して得られたものである。		製造用剤	Timber ash extract	
336	モモ樹脂 (モモの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ピーチガム	バラ科モモ(<i>Prunus persica</i> BATSCH)の幹枝の樹脂成分を、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。		増粘安定剤	Peach gum	
337	ヤマモモ抽出物 (ヤマモモの果実、樹皮又は葉から抽出して得られたものをいう。)			ヤマモモ科ヤマモモ(<i>Myrica rubra</i> SIEBOLD)の果実、樹皮又は葉より、水、エタノール又はメタノールで抽出して得られたものである。成分としてミリシトリンを含む。	ヤマモモ科ヤマモモ(<i>Myrica rubra</i> Siebold et Zuccarini)の果実、樹皮又は葉からより、水、エタノール又はメタノールで抽出して得られたものである。成分としてミリシトリンを含む。	酸化防止剤	Chinese bayberry extract	ヤマモモ(<i>Myrica rubra</i> Siebold et Zuccarini)の果実、樹皮又は葉から抽出して得られたものである。主成分はミリシトリンである。
338	ユッカフォーム抽出物 (ユッカアラボレセンス又はユッカシジゲラの全草から得られた、サポニン主成分とするものをいう。)	ユッカ抽出物	ユッカフォーム ユッカ・フォーム	ユリ科ユッカ・アラボレセンス(<i>Yucca arborescens</i> TREL.)又はユリ科ユッカ・シジゲラ(<i>Yucca schidigera</i> ROEHL ex Ortigies)の全草より、熱時水で、又は室温時~微温時含水エタノール又は含水イソプロピルアルコールで抽出して得られたものである。主成分はサポニン(サルササポニン等)である。	ユリ科ユッカ・ブレビフォリアアラボレセンス(<i>Yucca brevifolia</i> Engelm.)又はユリ科ユッカ・シジゲラ(<i>Yucca schidigera</i> Roehl ex Ortigies)の全草からより、熱時水で、又は室温時~微温時含水エタノール又は含水イソプロピルアルコールで抽出して得られた、ものである。主成分はサポニンを主成分とするもの(サルササポニン等)である。	乳化剤 製造用剤	Yucca foam extract Yucca joshua tree	ユッカ・ブレビフォリア(<i>Yucca brevifolia</i> Engelm.)又はユッカ・シジゲラ(<i>Yucca schidigera</i> Roehl ex Ortigies)の全草から得られた、サポニンを主成分とするものである。
339	ラカンカ抽出物 (ラカンカの果実から得られた、モグロシド類を主成分とするものをいう。)	ラカンカエキス	ラカンカ	ウリ科ラカンカ(<i>Momordica grosvenorii</i> SWINGLE)の果実より、水、含水メタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は室温時~温時含水メタノールで抽出し、植物油を用いて油性成分を除去したものであり得られたものである。主甘味成分はモグロシド類である。	ウリ科ラカンカ(<i>Siraitia grosvenorii</i> C. Jeffrey ex A. M. Lu & Zhi Y. Zhang(<i>Momordica grosvenorii</i> Swingle) WINGLE)の果実からより、水、含水メタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は室温時~温時含水メタノールで抽出し、植物油を用いて油性成分を除去したものであり得られた、ものである。主甘味成分はモグロシド類を主成分とするものである。	甘味料	Rakanka extract	ラカンカ(<i>Siraitia grosvenorii</i> C. Jeffrey ex A. M. Lu & Zhi Y. Zhang(<i>Momordica grosvenorii</i> Swingle))の果実から得られた、モグロシド類を主成分とするものである。
340	ラクトパーオキシダーゼ			脱脂生乳又は乳清より、イオン交換樹脂で分離して得られたものである。		酵素	Lactoperoxidase	

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
341	ラクトフェリン濃縮物 (ほ乳類の乳から得られた、ラクトフェリンを主成分とするものをいう。)		ラクトフェリン	ほ乳類の乳を脱脂分離したものの又は乳清より、精製し、濃縮して得られたものである。主成分は、ラクトフェリンである。		製造用剤	Lactoferrin concentrates	
342	ラック色素 (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ラッカイン酸類を主成分とするものをいう。)	ラッカイン酸	ラック	カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質より、室温時～熱時水で抽出して得られたものである。主色素はラッカイン酸類である。	カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer</i> spp. <i>laeca</i> KERR) の分泌液からする樹脂状物質より、室温時～熱時水で抽出して得られた、ものである。主色素はラッカイン酸類を主成分とするものである。	着色料	Lac colour	ラックカイガラムシ (<i>Laccifer</i> spp.) の分泌液から得られた、ラッカイン酸類を主成分とするものである。
343	ラノリン (ヒツジの毛に付着するろう様物質から得られた、高級アルコールと α -ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものをいう。)	羊毛ロウ		ウシ科ヒツジ (<i>Ovis aries</i> LINNE) の毛に付着するろう様物質より得られたものである。主成分は高級アルコールと C_{12} ～ C_{32} の α -ヒドロキシ酸のエステルである。	ウシ科ヒツジ (<i>Ovis aries</i> LINNE) の毛に付着するろう様物質からより得られた、ものである。主成分は高級アルコールとC_{12}～C_{32}のα-ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものである。	ガムベース 光沢剤	Lanolin	ヒツジの毛に付着するろう様物質から得られた、高級アルコールと α -ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものである。
344	ラムザンガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ラムザン多糖類	ラムザン	グラム陰性細菌 (<i>Alcaligenes</i> (ATCC31961)) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	グラム陰性細菌スフィンゴモナス属菌 (<i>Sphingomonas</i> sp. <i>Alealigenes</i> (ATCC31961)) の培養液からより、分離して得られた、ものである。主成分は多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。	増粘安定剤	Rhamsan gum	スフィンゴモナス属菌 (<i>Sphingomonas</i> sp.) の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものである。ショ糖、ブドウ糖、乳糖、デキストリン又はマルトースを含むことがある。
345	L-ラムノース		ラムノース	「ルチン(抽出物)」又はミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK) 若しくはミカン科ウンシュウミカン (<i>Citrus unshiu</i> MARCOV.) の果皮、樹皮若しくは花に含まれる配糖体、又は大豆油、菜種油若しくはコーン油を発酵、濃縮分離して得られたものを、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-ラムノースである。		甘味料	L-Rhamnose	
346	卵黄レシチン (卵黄から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		卵黄より得られた卵黄油より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。		乳化剤	Yolk lecithin	
347	L-リシン	L-リジン	リシン リジン	糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-リシンである。		調味料 強化剤	L-Lysine	定義なし
348	リゾチーム	卵白リゾチーム		卵白より、冷時～室温時アルカリ性水溶液及び食塩水で処理し、樹脂精製して得られたもの、又は冷時～熱時樹脂処理若しくは加塩処理した後、カラム精製若しくは再結晶により得られたものである。	卵白より、 冷時～室温時 アルカリ性水溶液及び食塩水で処理し、樹脂精製して得られたもの、又は 冷時～熱時 樹脂処理若しくは加塩処理した後、カラム精製若しくは再結晶により得られたもので、 細菌の細胞壁物質を溶解する酵素 である。	酵素	Lysozyme	卵白より、アルカリ性水溶液及び食塩水で処理し、樹脂精製して得られたもの、又は樹脂処理若しくは加塩処理した後、カラム精製若しくは再結晶により得られたもので、細菌の細胞壁物質を溶解する酵素である。
349	リパーゼ	脂肪分解酵素	エステラーゼ	動物若しくは魚類の臓器、又は動物の舌下部より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの又は糸状菌 (<i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Aspergillus usami</i> , <i>Geotrichum candidum</i> , <i>Humicola</i> , <i>Mucor javanicus</i> , <i>Mucor miehei</i> , <i>Penicillium camembertii</i> , <i>Penicillium chrysogenum</i> , <i>Penicillium roquefortii</i> , <i>Rhizomucor miehei</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus japonicus</i> , <i>Rhizopus miehei</i> , <i>Rhizopus niveus</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>)、細菌 (<i>Alcaligenes</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Chromobacterium viscosum</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Serratia marcescens</i>) 又は酵母 (<i>Candida</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又はエタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたものである。		酵素	Lipase	
350	リポキシゲナーゼ	リポキシダーゼ		植物油粕より、又は糸状菌 (<i>Rhizopus</i>) の培養液より、水で抽出して得られたものである。		酵素	Lipoxygenase	
351	D-リボース		リボース	グラム陽性細菌 (<i>Bacillus pumilus</i> , <i>Bacillus subtilis</i>) によるD-グルコースの発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はD-リボースである。	グラム陽性細菌 (<i>Bacillus pumilus</i> 又は <i>Bacillus subtilis</i>) によるD-グルコースの発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はD-リボースである。	甘味料	D-Ribose	グラム陽性細菌 (<i>Bacillus pumilus</i> 又は <i>Bacillus subtilis</i>) によるD-グルコースの発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はD-リボースである。
352	流動パラフィン	ミネラルオイルホワイト	パラフィン	石油の軽質留分を留去した残渣より、分留し、精製して得られたものである。	石油から得た炭化水素類の混合物の軽質留分を留去した残渣より、分留し、精製して得られたものである。	製造用剤	Liquid paraffin	石油から得た炭化水素類の混合物である。
353	リンターセルロース (ワタの単毛から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	アオイ科ワタ (<i>Gossypium hirsutum</i> LINNE) の実の単毛を、精製して得られたものである。主成分はセルロースである。		製造用剤	Lintar cellulose	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
354	ルチン酵素分解物 (「ルチン(抽出物)」から得られた、イソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)		イソクエルシトリン	「ルチン(抽出物)」を、酵素(ナリンジナーゼ、ヘスペリジナーゼ又はラムノシダーゼ)処理した後、精製して得られたものである。主成分はイソクエルシトリンである。	「ルチン(抽出物) (アズキ (<i>Vigna angularis</i> Ohwi et H. Ohashi) の全草、エンジュ (<i>Sophora japonica</i> Linné) のつぼみ若しくは花又はソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> Moench) の全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)」を、酵素(ナリンジナーゼ、ヘスペリジナーゼ又はラムノシダーゼ)処理した後、精製して得られたものである。主成分はイソクエルシトリンである。	酸化防止剤	Enzymatically decomposed rutin	ルチン(抽出物) (アズキ (<i>Vigna angularis</i> Ohwi et H. Ohashi) の全草、エンジュ (<i>Sophora japonica</i> Linné) のつぼみ若しくは花又はソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> Moench) の全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)を酵素処理した後、精製して得られたものである。主成分はイソクエルシトリンである。
355	ルチン(抽出物) (アズキの全草、エンジュのつぼみ若しくは花又はソバの全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド ルチン			酸化防止剤 着色料	Rutin (extract)	
	エンジュ抽出物			マメ科エンジュ (<i>Sophora japonica</i> LINNE) のつぼみ又は花より、熱時水で抽出して得られたもの、温時エタノールで抽出して得られたもの、又は室温時メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主成分はルチンである。	ルチン(抽出物)のうちマメ科エンジュ (<i>Sophora japonica</i> Linne LINNE) のつぼみ又は花より、熱時水で抽出して得られたもの、温時エタノールで抽出して得られたもの、又は室温時メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主成分はルチンである。		Enju extract Japanese pagoda tree extract	ルチン(抽出物)のうちエンジュ (<i>Sophora japonica</i> Linné) のつぼみ又は花より、水、エタノール又はメタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主成分はルチンである。
	アズキ全草抽出物			マメ科アズキ (<i>Azuki angularis</i> OHWI) の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。			Azuki extract	
	ソバ全草抽出物			タデ科ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH) の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。			Buckwheat extract	
356	ルテニウム			⁹⁶ Ru, ⁹⁸ Ru, ⁹⁹ Ru, ¹⁰⁰ Ru, ¹⁰¹ Ru, ¹⁰² Ru, ¹⁰⁴ Ru		製造用剤	Ruthenium	
357	レイシ抽出物 (マンネンタケの菌糸体若しくは子実体又はその培養液から抽出して得られたものをいう。)	マンネンタケ抽出物	レイシ	サルノコシカケ目マンネンタケ (<i>Ganoderma lucidum</i> KARST.) の菌糸体若しくは子実体、又はその培養液より、水、エタノール又は二酸化炭素で抽出して得られたものである。		苦味料等	Mannentake extract	
358	レッチュデバカ (レッチュデバカの分泌液から得られた、アミリンエステルを主成分とするものをいう。)			クワ科レッチュデバカ (<i>Brosimum utile</i> (H. B. K) PITT.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶性成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンエステルである。		ガムベース	Leche de vaca	
359	レバン (枯草菌の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	フラクタン		枯草菌 (<i>Bacillus subtilis</i> (EHR.) COHN) によるショ糖又はラフィノースの発酵培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。		増粘安定剤	Levan	
360	レンネット	キモシン レンニン		反すう動物の第四胃より、室温時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、又は酵母菌 (<i>Kluyveromyces lactis</i>)、糸状菌 (<i>Mucor miehei</i> , <i>Mucor pusillus</i> LINDT, <i>Mucor</i> spp., <i>Rhizomucor miehei</i>)、担子菌 (<i>Irpelex lacteus</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus cereus</i> , <i>Cryphonectria parasitica</i> , <i>Escherichia coli</i> K-12等) の培養液より、室温時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、室温時濃縮したもの、又は、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。		酵素	Rennet	
361	L-ロイシン		ロイシン	動物性若しくは植物性タンパク質の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵法により得られたものより、分離して得られたものである。成分はL-ロイシンである。		調味料 強化剤	L-Leucine	定義なし
362	ログウッド色素 (ログウッドの心材から得られた、ヘマトキシリンを主成分とするものをいう。)			マメ科ログウッド (<i>Haematoxylon campechianum</i>) の心材より、熱時水で抽出して得られたものである。主色素はヘマトキシリンである。黒褐色を呈する。		着色料	Logwood colour	
363	ロシディンハ (ロシディンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ロジディンハ		アカテツ科シデロキシロン属 (<i>Sideroxylon</i>) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。		ガムベース	Rosidinha	
364	ロジン (マツの分泌液から得られた、アビエチン酸を主成分とするものをいう。)	ロジン		マツ科マツ (<i>Pinus palustris</i> MILL.) の樹皮の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去して得られたものである。主構成成分はアビエチン酸である。		ガムベース	Rosin	

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質		用途	備考	参考
	名称	別名		旧	改正箇所 ※第8版公定書で定義が削除されたものについては、 旧リストのままとする。			食品添加物公定書(第8版)
365	ローズマリー抽出物 (マンネンロウの葉又は花から得られた、カルノシン酸、カルノソール及びロスマノールを主成分とするものをいう。)	マンネンロウ抽出物		シソ科マンネンロウ (<i>Rosmarinus officinalis</i> LINNE) の葉又は花より、二酸化炭素、温時～熱時含水エタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時ヘキサン、メタノール若しくは含水メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。有効成分は、フェノール性ジテルペノイド(ロスマノール、カルノソール及びカルノシン酸等)である。		酸化防止剤	Rosemary extract	